Fusion

取扱説明書

安全にご使用いただくために

＊ご使用前に、本書を最後までよくお読みください。
＊お子様が使用される場合は、保護者の方が本書をよくお読みになり、万全なご指導をお願いします。
＊日頃の点検を怠ると、思わぬ事故や車いすの破損のおそれがあります。

はじめに

この度は、オーエックス製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

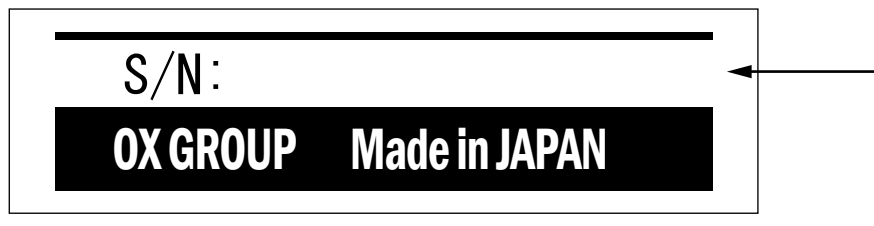
この取扱説明書には、お買い上げいただいた製品が十分にその性能･機能を発揮できるように、また、安全にご使用いただけるように、正しい取扱い方法や点検･整備などについて必要な事柄を記載してあります。車いすの取扱いを十分ご存じの方も、この製品独自の装備･取扱いがありますので、必ずご使用前に本書をよくお読みになっていただき、正しく、安全で、快適にご使用ください。また、お子様が使用される場合は、保護者の方と一緒に本書をお読みいただき、保護者の方の万全なご指導をお願いします。なお、本書は紛失しないように大切に保管してください。

＊本書を紛失してしまった場合は再発行(有料)いたしますので販売店、または下記までご連絡ください。
＊お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られる所に保管してください。
＊落丁･乱丁がありましたらお取替えいたしますので、下記までご連絡ください。

株式会社 オーエックスエンジニアリング 営業部 お客様ご相談窓口
〒265-0043　千葉市若葉区中田町2186-1
TEL043-228-0777/FAX043-228-3334

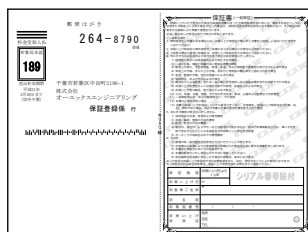
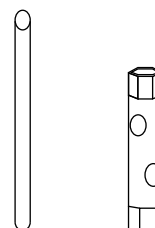
＜シリアルナンバー表示位置＞

アフターサービスについてのご相談に対し的確な判断･処置をするため、シリアルナンバーを正確にご連絡ください。なお、シリアルナンバーはメインフレーム右側及び保証書に貼られています。

あなたの車いすのシリアルナンバー

＊仕様変更や各機種共通仕様などにより図や内容が一部実物と異なる場合がありますのでご了承ください。

＜付属品＞※：車いすの仕様により工具が付属します

付属品は次の通りですのでご確認ください。

本書

保証書 / 延長保証登録ハガキ

※：付属工具

キャスターフォーク「SFR2」選択時

・ボックスレンチ(10-12mm)1セット

＜各部の名称＞※：オプション

バックレスト
サイドレザー
※アームレスト
※グリップ
シート
フレーム
車輪中心
（ハブ・プッシュロッド・ホイールシャフト）
ハンドリム
レッグベルト
フットレスト
ホイール
キャスター
ブレーキ

も く じ

安全上のご注意

＜絵表示について＞

この取扱説明書では、この製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防ぐために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は、次のとおりです。内容をよく理解してから本文をお読みください。

警告

この表示を無視して誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を指しています。

この表示を無視して誤った取扱いをすると、人が損傷を負う可能性が想定される内容及び物的損害のみの発生が想定される内容を指しています。

この表示は、増し締め箇所を示しています。
定期的に、緩みがないか点検・増し締めをして下さい。

この表示は、注油箇所を示しています。
定期的(1か月に1度が目安)に、注油をして下さい。

この表示の示す箇所には、絶対に潤滑油などの油分は塗布してはいけません。
万が一、油分などが付着した場合は、十分に脱脂してください。

⚠警告

自操用車いす以外の目的に使用しない。

事故や転倒などのおそれがあります。また、車いすを損傷させるおそれがあります。
この製品は、自操・平坦地専用です。補助動力装置などを取付けると保証の適用は除外されますので、取付けないでください。

壊れたままや異常がある時は使用しない。

事故や転倒などのおそれがあります。
故障や異常を見つけたら、車いすの使用をやめ販売店にご相談ください。

改造・分解しない。

改造すると安全性が低下して、部品が破損したり、外れたり、車いすを損傷させたりし、事故や転倒などのおそれがあります。
改造・分解は行わず、整備が必要な時は販売店にご相談ください。

調整作業に不安がある時は調整しない。

部品が破損したり、外れたり、車いすを損傷させて、事故や転倒などのおそれがあります。
不安な時は販売店にご相談ください。

不十分な調整状態で使用しない。

身体に無理をかけたり、褥瘡(じょくそう)などになるおそれがあります。
身体の状態に合わせて、正しい乗車姿勢が保て、麻痺部位と車いすの固い部分(フレームなど)が接触しないように調整します。

ホイールの装着後、固定を確認せずに使用しない。(P.15)

ホイールが外れて転倒などのおそれがあります。
必ず乗る前に点検してください。

乗車時はプッシュロッドには触れない。(P.15)

ホイールが外れて転倒などのおそれがあります。

車軸前後位置及び座面の高さは、身体の状態に合わせ無理をしない。(P.36・37)

転倒、転落のおそれがあります。

高温になる場所(炎天下の自動車内、暖房器具の近くなど)で使用しない。

車いすが加熱され火災ややけどなどのおそれがあり、また、パンクなど部品を著しく傷めるおそれがあります。

車いすに巻き込まれやすい服装は避ける。

ホイールやキャスターなどに巻き込まれ、事故や転倒などのおそれがあります。

他の乗り物につかまりながらの移動はしない。

車いすを損傷させたり転倒・転落などのおそれがあります。

車いすを踏み台にしたり、車いすの上で立ち上がったりしない。

バランスを崩し転倒・転落のおそれがあります。

自動車の助手席及び後部座席に車いすを積み込む際は、確実に固定する。

自動車の運転中に車いすが動き、運転に支障をきたします。

⚠警告

フットレストに乗ったり、立ったりしない。

転倒や転落などのおそれがあります。また、車いすが損傷します。

掃除する時などに、タイヤやハンドリムにワックスなどの油分を付けない。

ワックスなどの油分が付くと、タイヤやハンドリムが滑り、十分なスピード調整ができなくなり、事故や衝突・転倒などのおそれがあります。
ワックスなどの油分が付いた時には、十分脱脂してください。

雨などでハンドリムが水に濡れた時は、スピードを出さない。

ハンドリムが滑り、十分なスピード調整ができなくなり、事故や衝突・転倒などのおそれがあります。
水分が付いた時には、乾いた布で十分拭き取ってください。

下り坂などではスピードを出さない。

衝突や転倒などの事故をおこしやすく危険です。
ハンドリムとの摩擦によるやけどに注意し、ハンドリムでスピード調整してください。

急坂などの自操は避ける。

事故や転倒のおそれがあります。
介助してもらいましょう。

ブレーキはスピード調整に使用しない。

タイヤがロックし、事故や転倒のおそれがあります。ブレーキは駐停車時専用です。
ハンドリムを使ってスピード調整してください。

悪路・荒地には入らない。

事故や転倒などのおそれがあります。また、車いすを損傷させるおそれがあります。この製品を山岳・荒地・砂地・河原・水中・泥地などのオフロードでは使用しないでください。

凹凸の激しいところ（踏切、歩道などの段差や溝）は自操を避ける。

キャスターがはさまったり、車いすを損傷させ、事故や転倒などのおそれがあります。

段差の飛び降りなど、乱暴・無理な取扱いをしない。

車いすを損傷させ、事故や転倒などのおそれがあります。

ペットを連れて使用しない。

ペットに車いすごと引きずられ、事故や転倒などのおそれがあります。

滑りやすいところは、自操を避ける。

降雪時、凍結路、工事用の鉄板やぬかるみ、軌道敷などはスリップしやすく事故や転倒などのおそれがあります。
介助してもらいましょう。

傘をさして使用しない。

レインコート・帽子などを使用してください。また、ハンドリムが濡れて滑りますので十分注意してください。

⚠警告

ブレーキをかけたまま走行しない。

ブレーキを損傷させ、事故や転落のおそれがあります。
ブレーキを解除してから走行しましょう。

未使用時の車いすに乳幼児を近づけない。

車いすを倒して下敷きになったり、けがのおそれがあります。

運動機能が低下するもの（アルコールや風邪薬など）を摂取した時は自操しない。

事故や転倒・転落などのおそれがあります。

ウイリー（キャスター上げ）は十分熟練するまで一人でやらない。

転倒のおそれがあります。

ハンドリム以外の回転部（タイヤ、スポークなど）に手を触れない。

手を巻き込まれるおそれがあります。

バックレストにバッグなどを取付ける場合、中身を入れすぎない。

後方へ転倒のおそれがあります。

エスカレーターは使用しない。

事故や転倒・転落のおそれがあります。

点検・整備をする。

点検・整備を怠ると、故障や事故などのおそれがあります。
日常の点検・整備、及び1か月に1回、各部の点検・整備をしてください。

車いすをこぎだす時、また走行中は周囲に気を付ける。

子供などが車いすの回転部・可動部に手などをはさまれるおそれがあります。

身体の状態に適したクッションを使用して車いすに着座する。

褥瘡（じょくそう）になるおそれがあります。

自動車の座席として使用しない。

車いすに移乗したまま、自動車の座席として車いすを固定して使用すると、車いすが破損し事故のおそれがあります。
自動車の座席、またはそれに耐えられる車いすに乗り換えてください。

夜間走行は避ける。

事故に遭うおそれがあります。
明るい道の利用、視認性の高い服装・機器などで自衛しましょう。

移乗時・停車時・未使用時はブレーキをかける。

車いすが動き出して落下・転落・転倒などのおそれがあります。
少しの間の停車、駐車でも必ずブレーキをかけてください。

道路交通法上車いすは歩行者です。歩道を通りましょう。

⚠注意

素足で使用しない。
けがのおそれがあります。
靴下をはき、底のある履き物をはいて使用してください。

タイヤをにぎって走行しない。
タイヤとサイドレザー、ブレーキ、アームレストの間に、指をはさむおそれがあります。
ハンドリムを使って走行してください。

屋外に放置しない。
気象変化や気温変化により、車いすが著しく劣化します。
必ず屋内に保管してください。

シートパイプをにぎって車いすを開かない。（P.14）
フレームとシートパイプの間に指をはさまれます。

サイドレザーと回転部（タイヤ、スポークなど）を接触させない。
サイドレザーが損傷します。
クッションの種類、サイズによっては、サイドレザーと回転部が接触するおそれがありますので、接触しないものを使用してください。

貴重品は車いすのポケットに入れない。
紛失・盗難のおそれがあります。

面ファスナーは、確実に貼付ける。
固定力が低下して、調整状態が変わります。

面ファスナーに付着したほこり・砂・糸くずなどは取除く。
固定力が低下して、調整状態が変わります。

＜安全に介助されるために＞

⚠注意

走行時に回転部・可動部には触れさせない。

介助者がホイールなどに巻き込まれるおそれがあります。

アームレストが確実にボルト固定状態であることを確認する。

介助時にアームレストを持ち、アームレストが抜け、転倒・転落のおそれがあります。
アームレストの固定状態であることを確認後、介助を受けてください。
また、着脱式アームレストの場合は、アームレストを持って介助しないでください。

持つ位置を指定する。（P.19）

転倒・転落のおそれがあります。また、介助者がけがをするおそれがあります。

介助者がメインホイールの装着を行ったときは、必ずプッシュロッドが完全に戻っていることを自ら確認する。

ホイールが外れ事故や転倒のおそれがあります。
この取扱説明書を読んでいない方がホイールの着脱や車いすの開閉などの介助をする場合は、あなたがその都度、説明してください。

1章
総説

この章では、基本的な操作方法とお手入れや保管方法及び調整・点検について説明しています。

- 基本的な操作方法
- お手入れについて
- 保管について
- 調整・点検について
- 調整可能な箇所

基本的な操作方法

○車いすのシート部にクッションを敷き、クッションに着座してください。
○足はフットレストに乗せてください。
○走行する時は、ハンドリムを手動で回転させて走行します。
○停止する時は、ハンドリムの回転を手で止めて停止します。
○駐停車時、移乗する時は、必ずブレーキをかけてください。

お手入れについて

○こまめに清掃することをお勧めします。
　こまめに清掃することにより、車いすの異常を早期に発見することにもつながります。

※有機溶剤を含んだ油汚れ取りは使用しないでください。
　塗装面がはがれるおそれがあります。

保管について

○必ず屋内で保管してください。
○長期間ご使用にならない場合は、タイヤを接地させないようにして、タイヤの空気を抜いて保管してください。
○再びご使用の際は点検・整備をしてください。

調整･点検について

○この車いすには、各所に調整機構がありますので、あなたの状態に合わせて各所の調整を行ってください。
○調整作業上、ホイールを外した方が作業しやすい場合がありますので、作業に合わせてホイールの着脱を行ってください。
○最適な姿勢で使用できるように各部の調整を行って下さい。
○調整作業に不安がある場合は、ご自分では調整しないで、販売店に依頼してください。
○日常の点検・整備を行ってください。
○1か月に1回を目安にして、定期点検を行ってください。

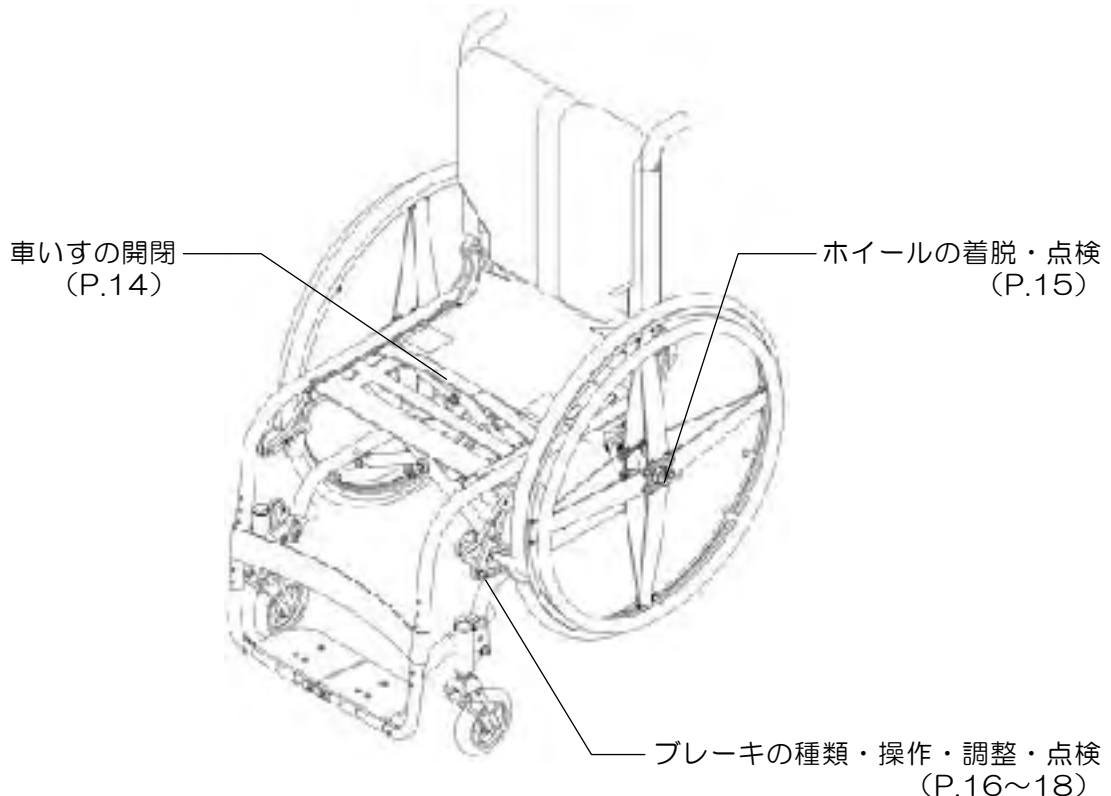
調整可能な箇所

○この車いすは、次の箇所に調整機構があります。

- □　ブレーキ：効き具合・前後位置
- □　バックレスト：高さ･角度･張り（バックレザー）
- □　フットレスト：長さ･角度（フットプレート）
- □　車軸：ホイール取付け間隔･後座高･車軸前後位置
- □　キャスター：前座高

2章
車いすに乗る前に

この章では、この車いすの基本的な機能について説明しています。ご使用になる前に次の各説明を必ずお読みください。

- 車いすの開閉
- ホイールの着脱・点検
- ブレーキの種類・操作
- ブレーキの調整・点検
- 乗車・安全な介助
- 介助ブレーキの操作・調整・点検

車いすの開閉

＜開き方＞【図1-1】

1）フレームの前方部を持って少し開く。
2）手をはさまないように注意しながらシートパイプを下方へ押し、確実にロックするまで広げる。
3）セパレートフットレストの場合は、左右のフットレストを開く。

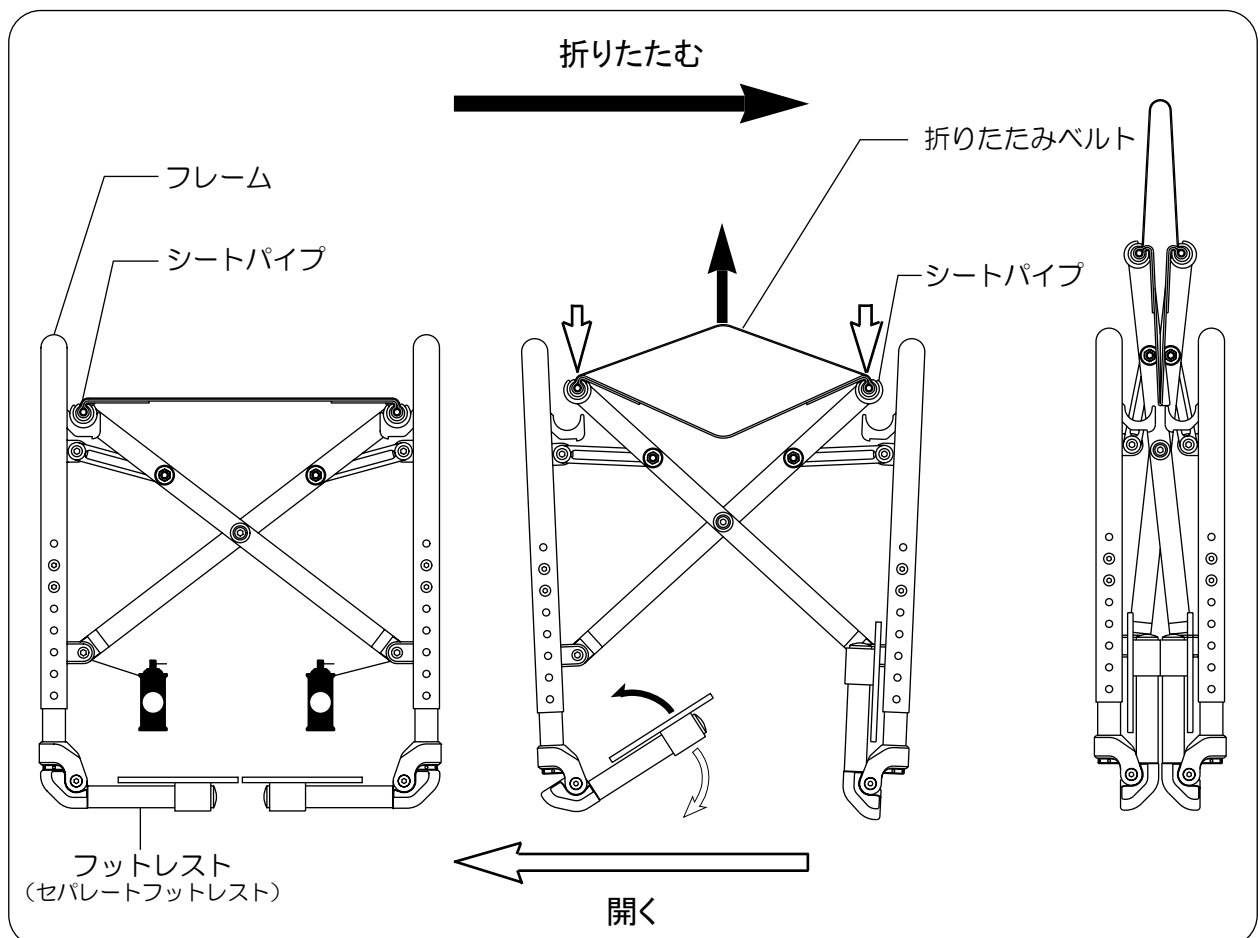
⚠注意

シートパイプをにぎって開かない。
＊シートパイプとフレームの間に手や指をはさみ、けがをするおそれがあります。

＜折りたたみ方＞【図1-1】

1）セパレートフットレストの場合は、左右のフットレストを折りたたむ。
2）折りたたみベルト中央部を、上に引き上げて折りたたむ。
3）シートパイプ先端部の左右を合わせて、確実に折りたたむ。

⚠注意

折りたたみベルトで車いすを持ち上げない。
＊折りたたみベルトが外れ、事故のおそれがあります。

【図1-1】

ホイールの着脱・点検

＜ホイールの外し方＞※着脱式ホイールのみ【図1-2】

1）ブレーキを「解除」する。（P.16）
2）ホイール中心部のプッシュロッドを押しながら、ホイールを手前に引く。

＜ホイールの取付け方＞※着脱式ホイールのみ【図1-2】

1）ブレーキを「解除」の状態にする。（P.16）
2）ホイール中心部のプッシュロッドを押しながら、ホイールシャフトを軸穴に差し込む。
3）確実に軸穴に差し込まれ、プッシュロッドが【図1-2】の「○」の状態であることを確認する。

＜ホイールの点検＞【図1-2】【図1-3】

○着脱式ホイールは装着時に、プッシュロッドが戻らないなどの異常が無いか確認する。
＊異常がありましたら使用を止めて販売店にご相談ください。

○固定式ホイールはフレーム内側の①ナットが緩んでいないか毎月定期的に確認する。
＊緩んでいるなどの異常がありましたら増し締めを行う必要があります。使用を止めて販売店にご相談ください。

○タイヤの減り具合、空気圧を見る。
＊タイヤから布地が少しでも見えたら交換してください。
＊タイヤの空気圧はP.44を参照してください。

①ナット締付けトルク　40N・m（4.0kgf・m）

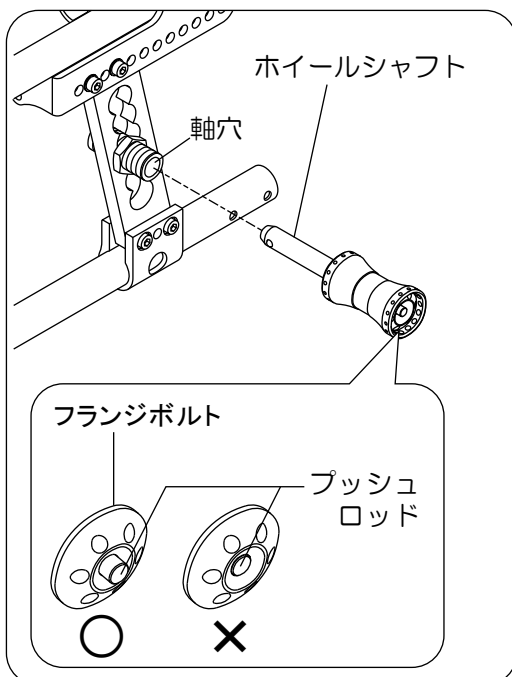
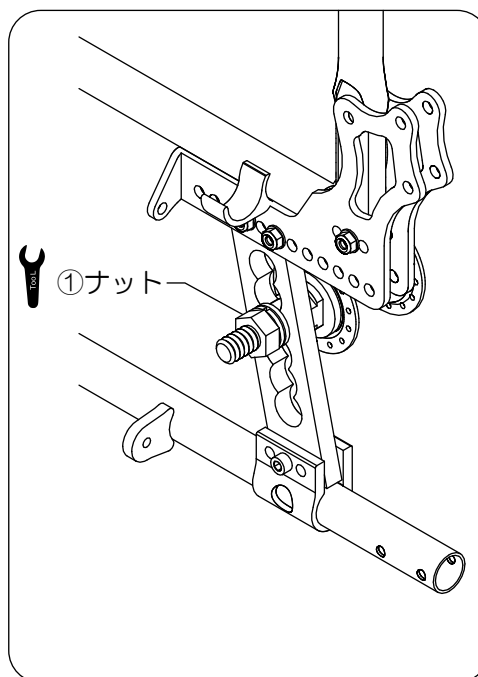
⚠警告

乗車中にはプッシュロッドに触れない。
＊乗車中にホイールが外れ事故や転倒などのおそれがあります。

⚠警告

フランジボルトの中心からプッシュロッドが十分突き出していることを確認する。
＊確実に固定されていないとホイールが外れ事故や転倒などのおそれがあります。
＊プッシュロッドが戻らないなどの異常がある場合は、車いすの使用を止めて販売店にご相談ください。

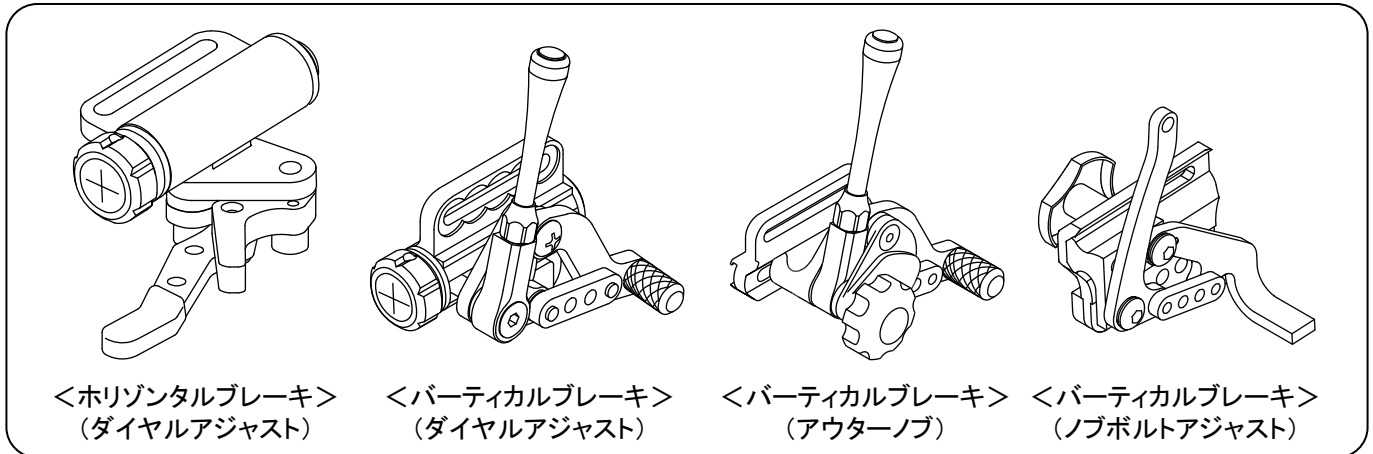
⚠警告

ホイールシャフトや軸穴は精密加工されていますので、傷を付けない。
＊傷がつくとホイールシャフトが入らなかったり、入りにくくなり危険です。
＊ホイールシャフトが入らなかったり、入りにくいなどの異常がある場合は、車いすの使用を止めて販売店にご相談ください。

【図1-2】

【図1-3】

ブレーキの種類・操作

ブレーキの種類には次の4つがありますので、ご自分の車いすに装着されているブレーキをご確認の上、「ブレーキの操作」「ブレーキの調整・点検」をお読みください。

<アジャスタブルブレーキ>【図1-4】

ダイヤル操作によるブレーキ位置の微調整が可能で、次のものがあります。

【図1-4】

<ブレーキのかけ方>【図1-5】

1）左右のブレーキレバーを後方(タイヤ側)にロックするまで引く。
2）車いすが動かないことを確認する。
※ブレーキをかけた状態で車いすが動く場合やブレーキが固くてかけられない場合は、「ブレーキの調整・点検」(P.17～18)を行ってください。

⚠警告

ブレーキをかけた状態で、車いすが動かないことを確認する。
＊転倒・転落のおそれがあります。
＊「ブレーキの調整・点検」(P.17～18)をこまめに行いブレーキの効き具合を最適に保ってください。

<ブレーキの解除>【図1-5】

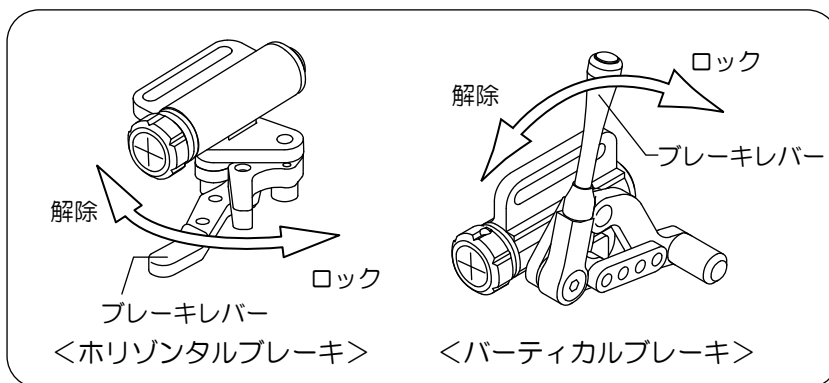
1）左右のブレーキレバーを前方(進行方向)に押す。
2）ブレーキが完全に解除されたことを確認する

⚠警告

ブレーキはスピード調整に使用しない。
＊タイヤがロックし、事故や転倒のおそれがあります。ブレーキは駐停車時専用です。

【図1-5】

⚠注意

ブレーキの解除をする時はブレーキレバーを最後まで戻す。
＊タイヤとブレーキの隙間に指をはさむおそれがあります。

ブレーキの調整・点検

「ホリゾンタルブレーキ」「バーティカルブレーキ」のどちらもタイヤの空気圧が適正な状態(P.44)で、ブレーキをかけた時のタイヤの凹み「A」【図1-6】が3～5㎜になるように調整してください。

⚠警告

ブレーキの効きは必要以上に強くしない。

＊ブレーキが破損し事故や転倒・転落のおそれがあります。

＜ダイヤルアジャストの調整＞【図1-6】【図1-7】

1）ブレーキを解除する。(P.16)
2）ダイヤルを回して調整する。
 a の方向(反時計回り)
 タイヤの凹みを増やし、ブレーキの効きを強くする。
 b の方向(時計回り)
 タイヤの凹みを減らし、ブレーキの効きを弱くする。
3）左右同様に調整する。

⚠警告

注油は、ブレーキとタイヤの接触する箇所には行わない。

＊ブレーキが効かず転倒・転落のおそれがあります。油分が付着してしまったときは、十分に脱脂してください。

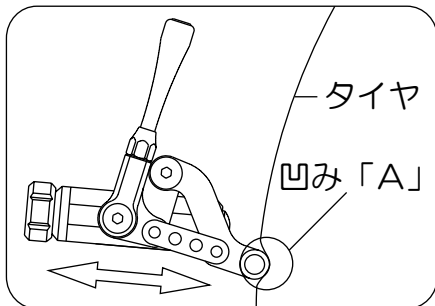
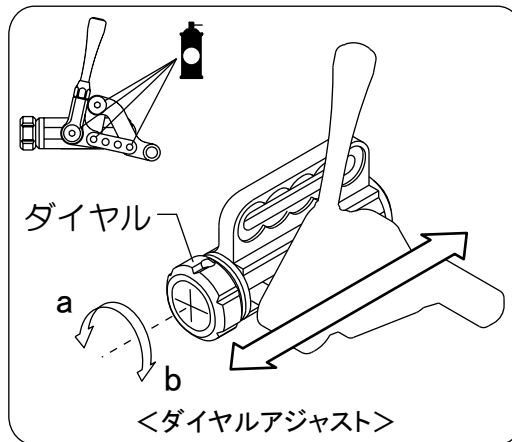
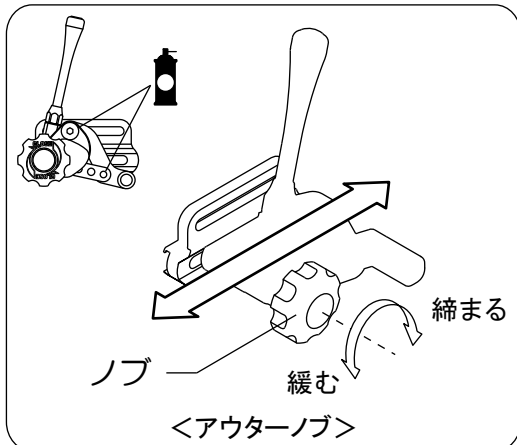
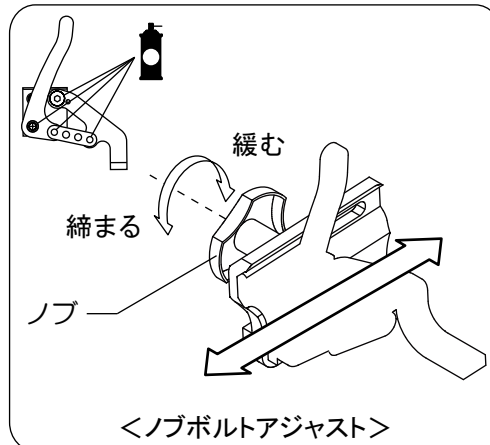
＜アウターノブ・ノブボルトアジャストの調整＞

【図1-6】【図1-8】【図1-9】

1）ブレーキを解除する。(P.16)
2）ノブを回して緩める。
3）最適な位置にスライドさせる。
4）ノブを回して締める。
5）左右同様に調整する。

⚠警告

アウターノブ・ノブボルトアジャストの調整後には「ノブ」が締まっているか確認してから使用する。

＊「ノブ」がしっかりと締まっていない状態で使用しますとブレーキが前後にスライドし非常に危険です。

【図1-6】

【図1-7】

【図1-8】

【図1-9】

ブレーキの調整・点検

<ステー取付け位置の調節>【図1-10】

車軸前後位置の調整やホイールサイズの変更を行うと、ダイヤルやノブによる微調整では調整しきれない場合があります。このような場合にはブレーキ本体もしくはブレーキステーの取付け位置を移動して調節を行ってください。

※下図は一例です。ご自分の車両に装着されているブレーキの部品構成をよく確認した上で調節してください。

<ブレーキの点検>

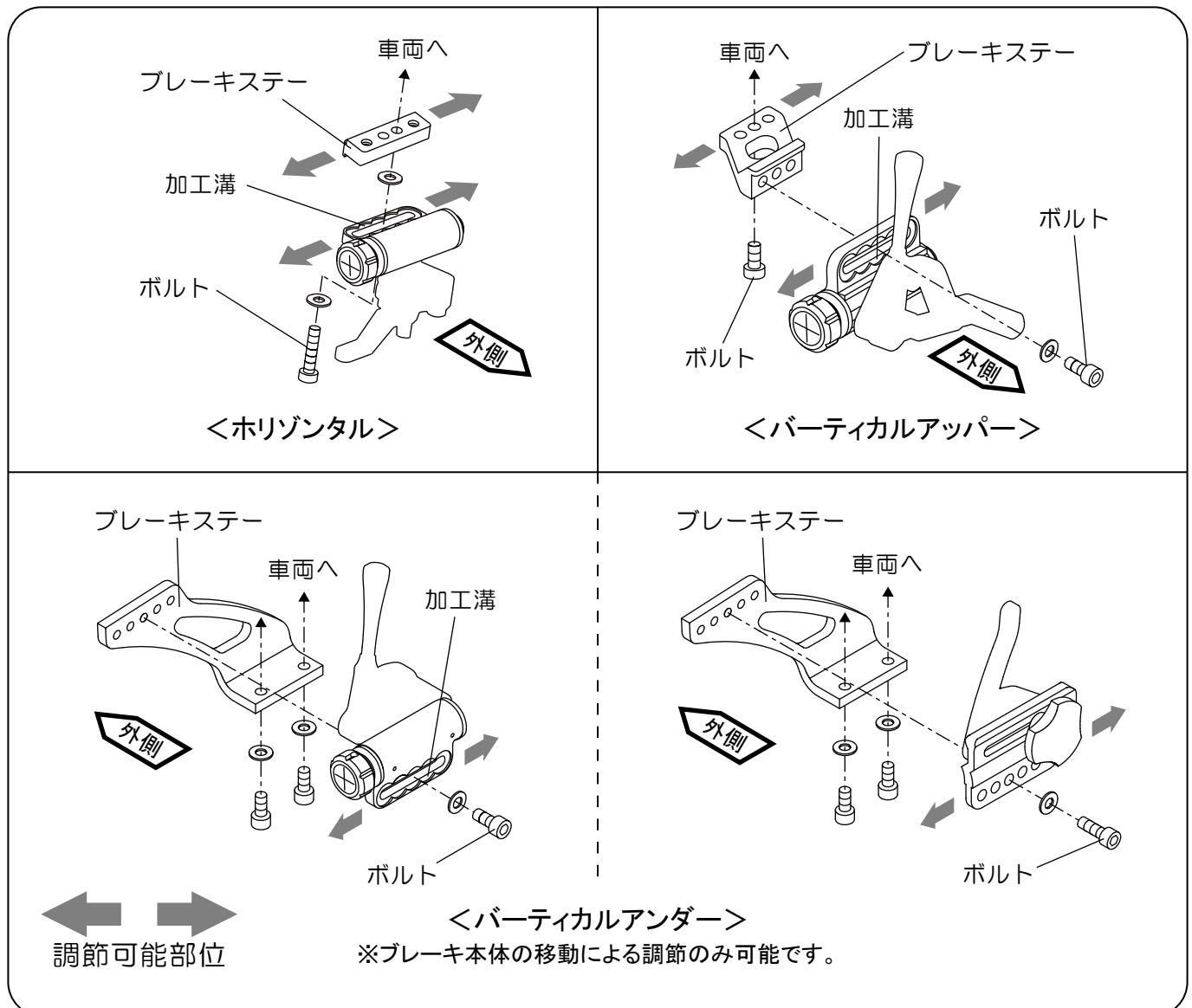
毎日乗車前にブレーキの効き、ボルト・ナット類の緩み、脱落がないか点検してください。

ボルト締付けトルク　10N・m(1.0kgf・m)

⚠警告

ボルトを締めるときにワッシャーが確実に加工溝に収まっていることを確認する。

＊ブレーキが外れ事故や衝突、転倒・転落のおそれがあります。

＊ブレーキにガタつきや異常な動きなどを見つけたら増し締めを行ってください。増し締めを行っても異常があるときは、車いすの使用を止め、販売店にご相談ください。

【図1-10】

乗車・安全な介助

＜乗車姿勢＞

車いすのシート部にクッションを敷き、着座してください。足はフットレストに乗せてください。
最適な姿勢で使用できるように、フットレストの調整、バックレストの調整を行ってください。3章各部の調整・点検参照。

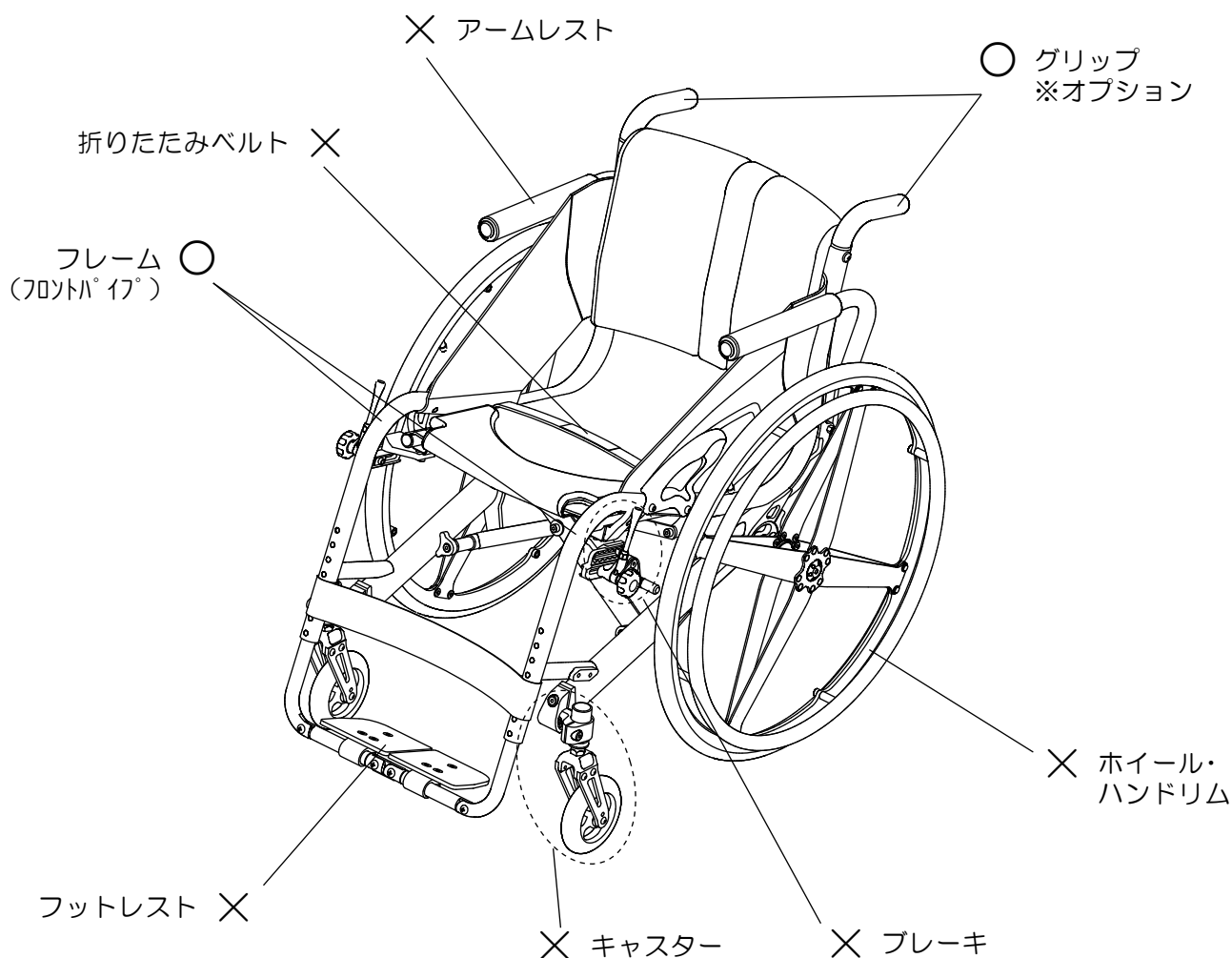
＜安全な介助のために＞【図1-11】

介助を受ける際には、車いすを持つ箇所を介助者に指示してください。
下図に示す×印の箇所は非常に危険です。

⚠警告

車いすを持ち上げるときは必ず○印の箇所を指定する。

＊○印以外の箇所を持つと部品が外れたり破損したりして落下・転落・転倒のおそれがあります。

＊車いすの介助に不慣れな方が、ホイールや着脱可能な状態のアームレストを持つことがありますが、非常に危険ですので、あなたが安全な箇所を指定してください。

【図1-11】

介助ブレーキの操作・調整・点検

介助ブレーキは、グリップに装着されたレバーを握り操作することで、介助する方が容易に減速、停車を行えるようにするものです。車いすから離れる場合や車いすを止めておく場合は、必ず車いすのブレーキ(P.16)をかけてください。

＜介助ブレーキのロック･解除方法＞【図1-12】

1）レバーを握る。
2）レバーを握りながら①を握る。
3）レバーをゆっくり放す。
4）レバーが戻らずに固定されていることを確認する。
5）反対側も同様にする。
6）再度レバーを握るとロックが解除します。

＜介助ブレーキの調整＞【図1-12】【図1-13】

1）介助ブレーキのロックを解除する。
2）②ナットを緩める。
3）③を回してレバーの引きしろを調整する。
調整の目安：ブレーキレバーを握り介助ブレーキがロックでき、かつロックした状態で押してもホイールが回らない。
4）②ナットを締める。**注意：強く締めると③が破損します。目安としては、手で回らない程度。**
5）左右同様に調整する。

⚠警告

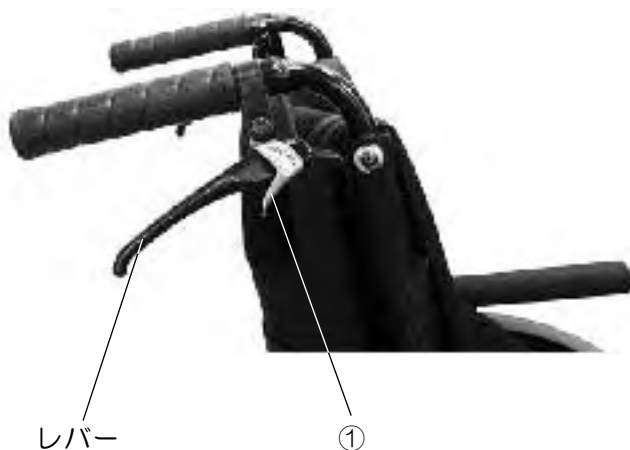
車いすから離れる時は、必ず車いすのブレーキ（P.16）をかける。
＊介助ブレーキのロックは補助的なものです。ロックが外れ、事故のおそれがあります。
＊必ず平坦な場所でブレーキ（介助ブレーキではありません）をかけてください。

⚠注意

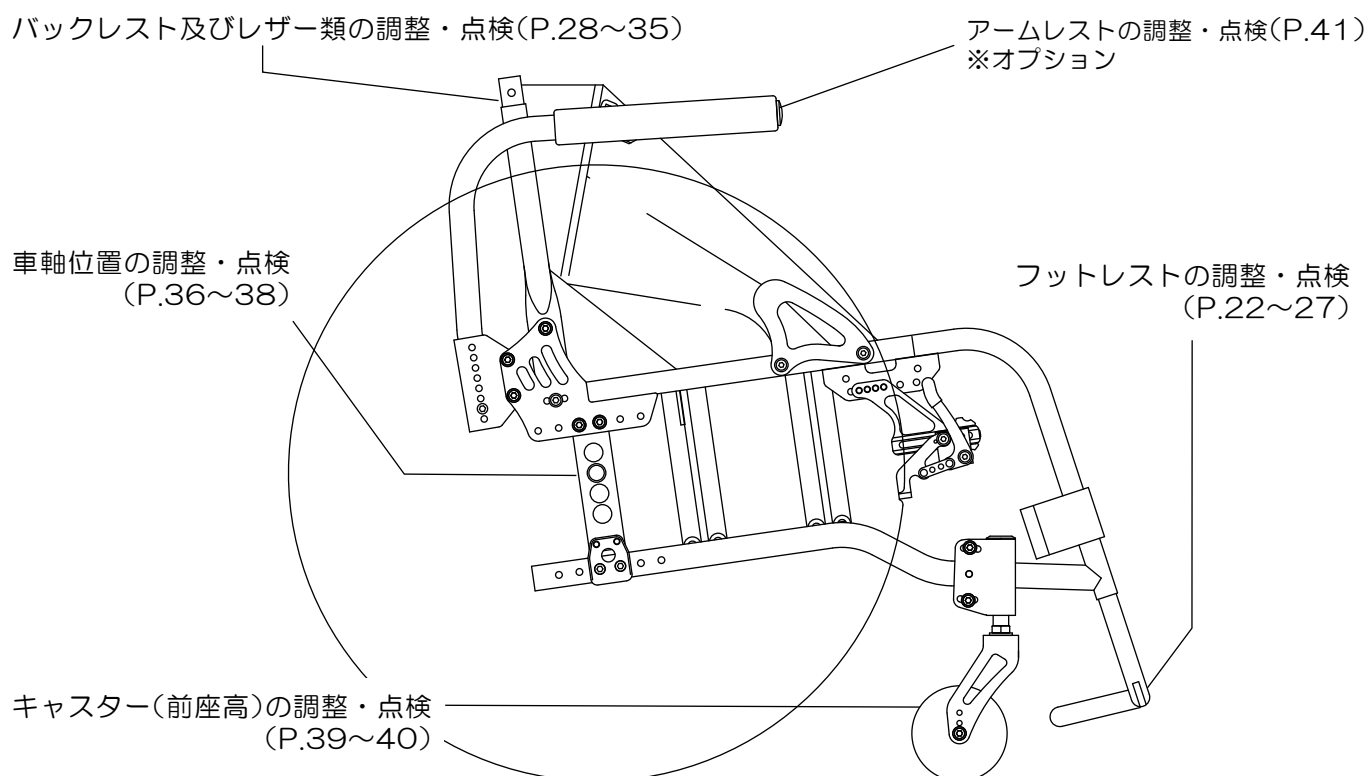
②ナットの締付けトルクには十分注意する。
＊③が破損します。

②ナット締付けトルク　2N･m(0.2kgf･m)

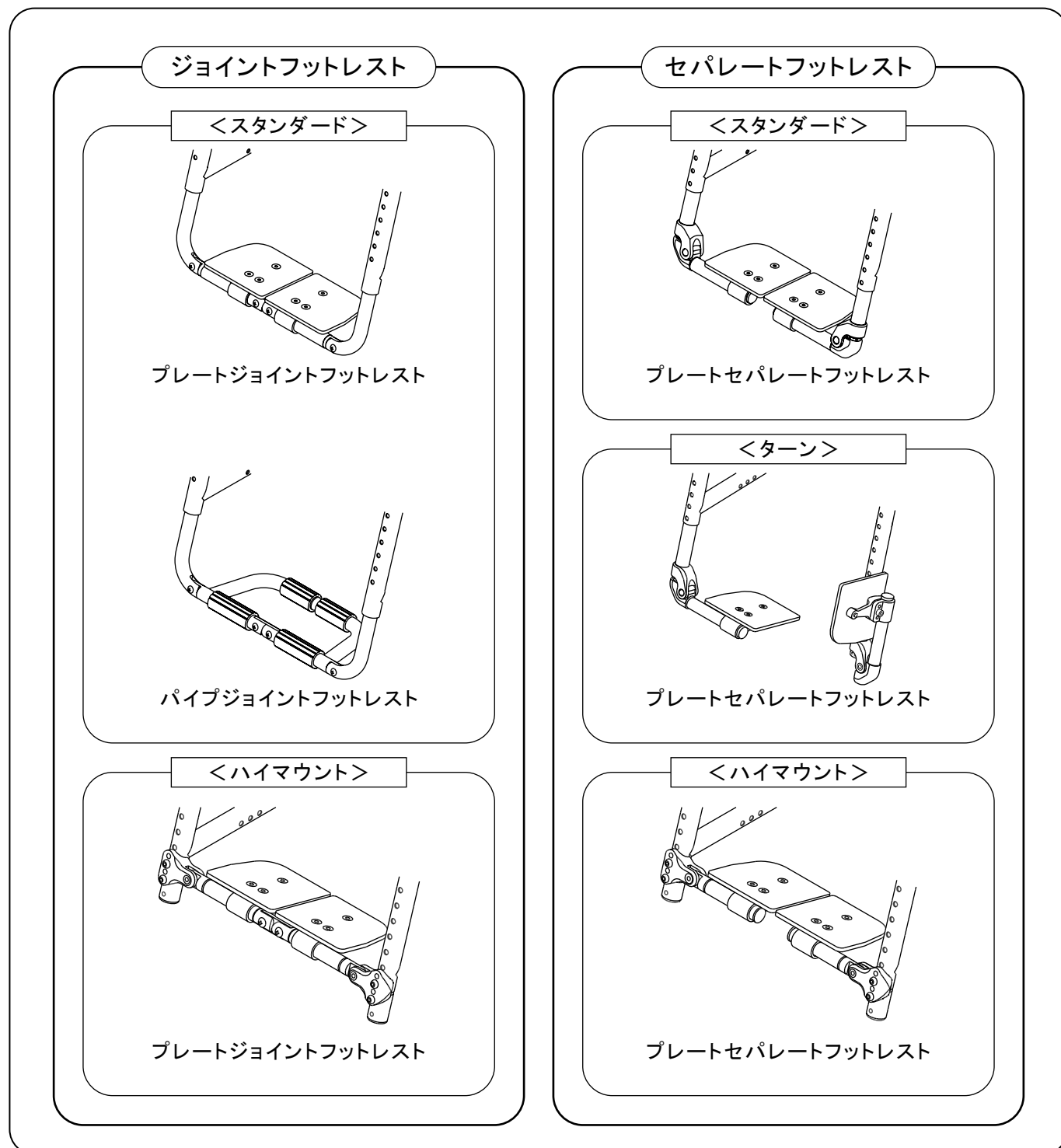
【図1-12】

③　②ナット

【図1-13】

3章
各部の調整・点検

この章では、各部の調整・点検について
説明しています。

フットレストの調整・点検

＜フットレストの種類＞【図2-1】

フットレストにはいくつかのタイプがありますので、ご自分の車いすに装着されているフットレストをご確認の上「フットレストの調整・点検」をお読みください。

【図2-1】

フットレストの調整・点検

＜フットレスト長の調整（スタンダード）＞【図2-2】

車いすのシート部にクッションを敷き、着座して最適なフットレスト長に調整してください。

1）レッグベルトを外す。（P.43）
2）左右の取付けネジ（ボルト）を外す。
3）フットレストロッドバーを上下にスライドさせ最適な位置に合わせる。
4）左右同じ位置に合わせ、取付けネジ（ボルト）を締付ける。
5）フットレストから足が後方に落ちないようにレッグベルトの張りを調整して取付ける。（P.43）

取付けネジ締付けトルク	6N･m（0.6kgf･m）
取付けボルト締付けトルク	8N･m（0.8kgf･m）

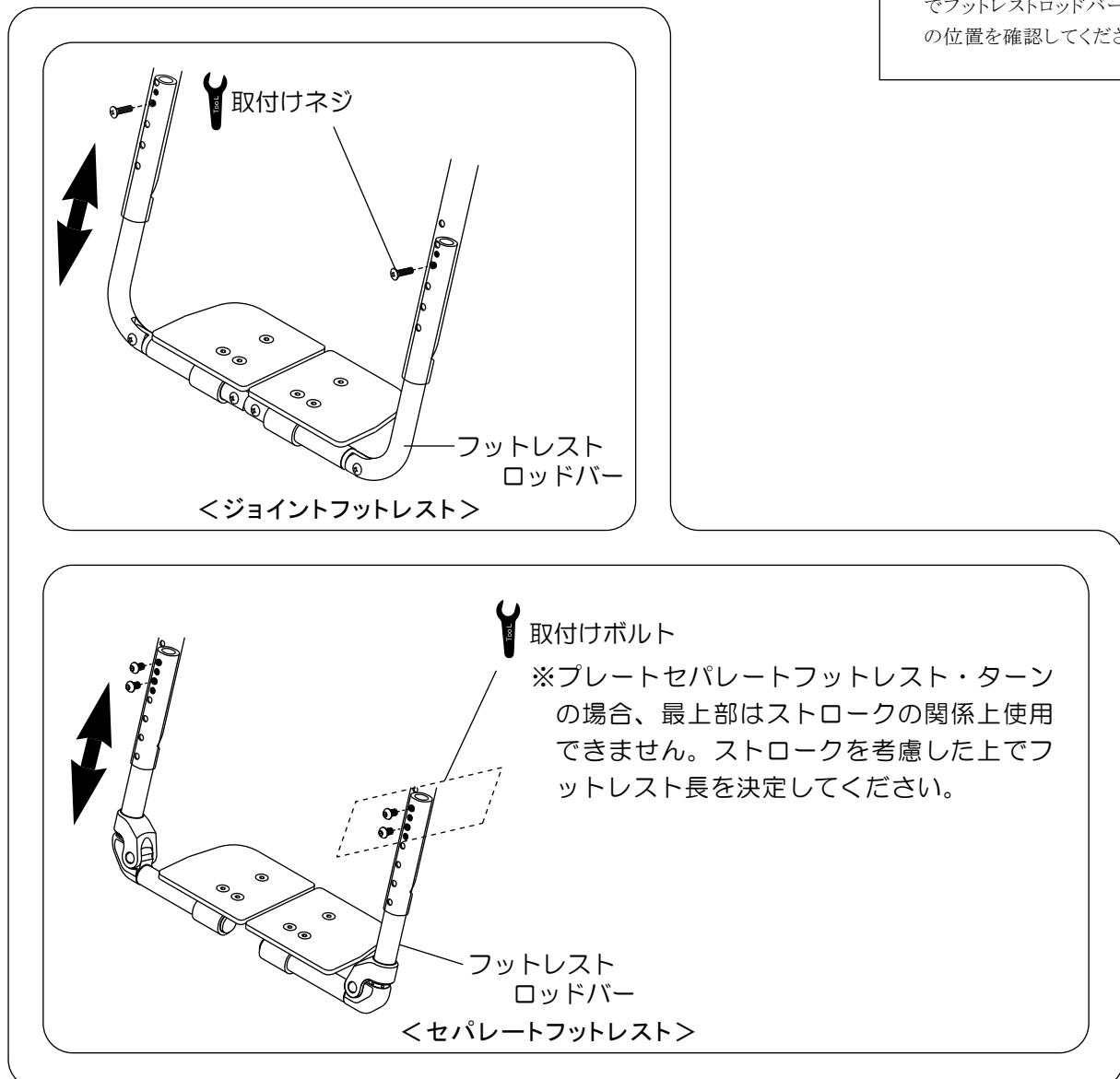
⚠警告

フットレストと地面の間隔は、十分確保する。
＊段差や石などに当り転倒・転落のおそれがあります。また、車いすが破損します。

⚠注意

ジョイントタイプのフットレストは必ず左右同じ長さに調整する。
＊車いすが破損するおそれがあります。
＊左右のフットレスト長確認は、車いすを折りたたんだ状態でフットレストロッドバー下端の位置を確認してください。

＜ジョイントフットレスト＞

＜セパレートフットレスト＞

【図2-2】

フットレストの調整・点検

<フットレスト長の調整（ハイマウント）>【図2-3】

車いすのシート部にクッションを敷き、着座して最適なフットレスト長に調整してください。

1）レッグベルトを外す。（P.43）

2）左右の取付けボルトを外す。

3）フットレストを最適な位置に合わせる。

※固定ボルトが邪魔になる場合は、固定ボルトの位置を変えてください。

4）左右の取付けボルトで締付ける。

5）フットレストから足が後方に落ちないようにレッグベルトの張りを調整して取付ける。（P.43）

取付けボルト締付けトルク　8N・m（0.8kgf・m）

⚠警告

フットレストと地面の間隔は、十分確保する。

＊段差や石などに当り転倒・転落のおそれがあります。また、車いすが破損します。

⚠注意

ジョイントタイプのフットレストは必ず左右同じ長さになるように調整する。

＊車いすが破損するおそれがあります。

＊左右のフットレスト長確認は、車いすを折りたたんだ状態でフットレストロッドバー下端の位置を確認してください。

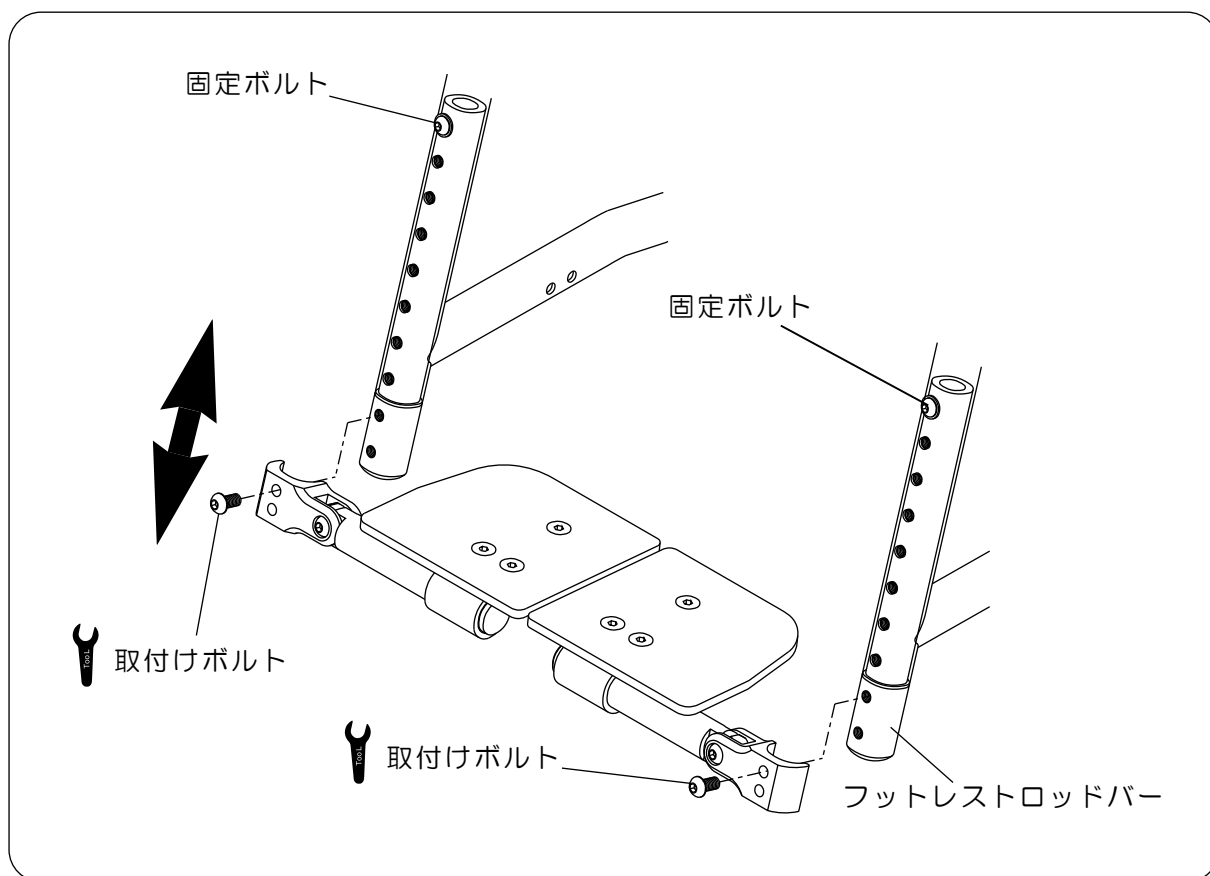
【図2-3】

フットレストの調整・点検

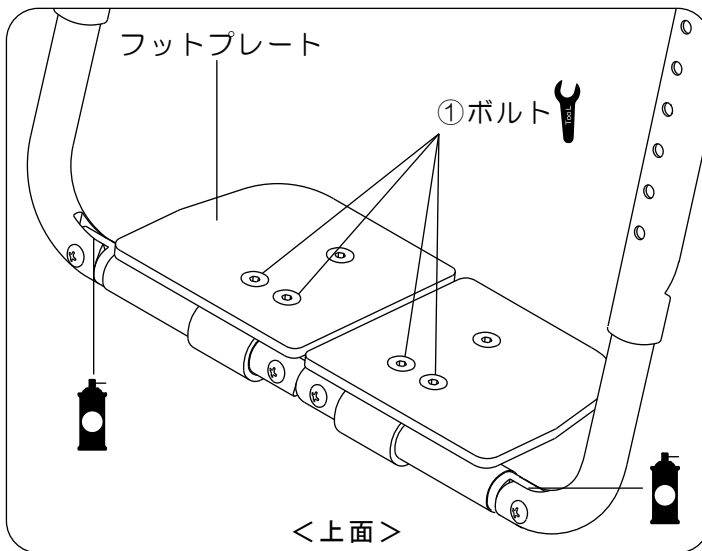
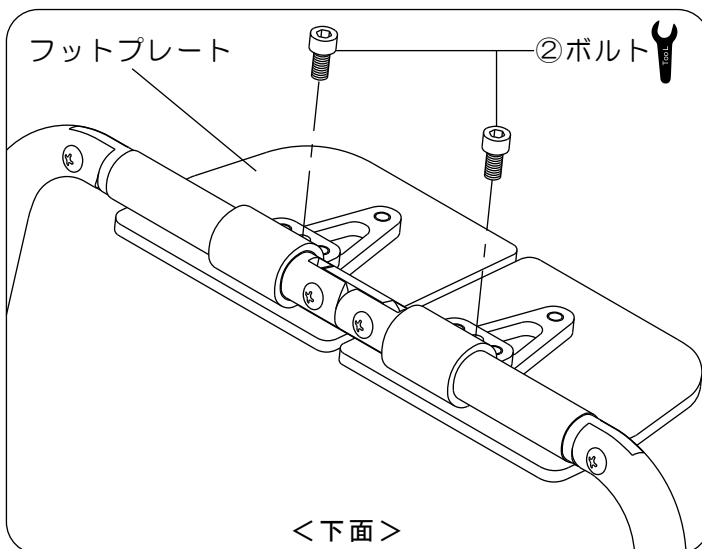
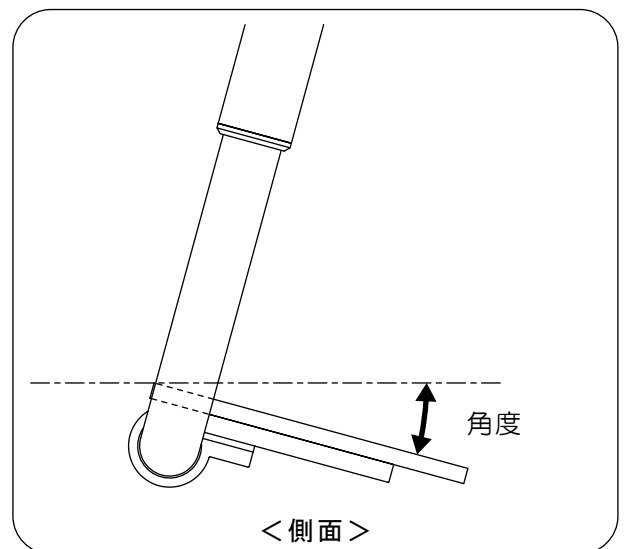
＜フットプレートの角度調整＞【図2-4】【図2-5】【図2-6】

1）①②ボルトを緩める。
2）フットプレートを最適な角度にする。【図2-6】
3）①②ボルトを交互に繰り返し締める。
　※交互に繰り返し締めないと確実に締まりません。
4）左右同様にする。
5）フットプレートと地面の間隔が十分確保できているか確認する。
6）車いすを折りたたみ、左右のフットプレート同士が接触して

①ボルト締付けトルク	8N･m(0.8kgf･m)
②ボルト締付けトルク	8N･m(0.8kgf･m)

⚠警告

フットレストと地面の間隔は、十分確保する。
＊段差や石などに当り転倒・転落のおそれがあります。また、車いすが破損します。

⚠注意

車いすを折りたたんだ状態でフレームや左右のフットプレート同士が接触した状態では使用しない。
＊車いすが破損するおそれがあります。
＊調整後は必ず確認してください。

【図2-4】

【図2-5】

【図2-6】

フットレストの調整・点検

＜セパレートフットレストの角度修正＞【図2-7】【図2-8】【図2-9】

セパレートフットレストは、フットレストロッドバーとフットプレートの角度を最適な状態に調整することができます。なお、セパレートフットレストのタイプによって調整方法が異なりますので装着されているフットレストをご確認ください。（P.22）

⚠注意

調整ボルトを緩めすぎない。

＊フットレストが破損します。

＊フットプレートがフットレストロッドバーに対して90°になるように修正してください。

セパレートフットレスト【図2-7】

1）フットレストを折りたたむ。

2）フットレストロッドバー下端の固定ボルトを外す。

3）調整ボルトを回して最適な角度に調整する。【図2-9】

4）調整ボルト側面のレンチかけに、六角レンチ（2㎜）を差し込む。

5）六角レンチ（2㎜）を回らないように支持しながら、固定ボルトを締付ける。

6）左右同様にする。

⚠注意

フットレストを折りたたむ際に手をはさまないように注意する。

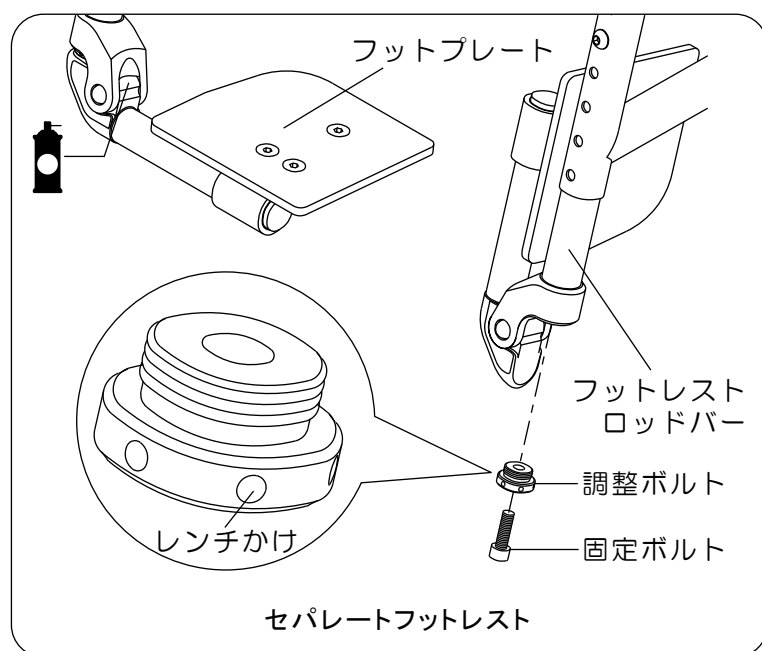
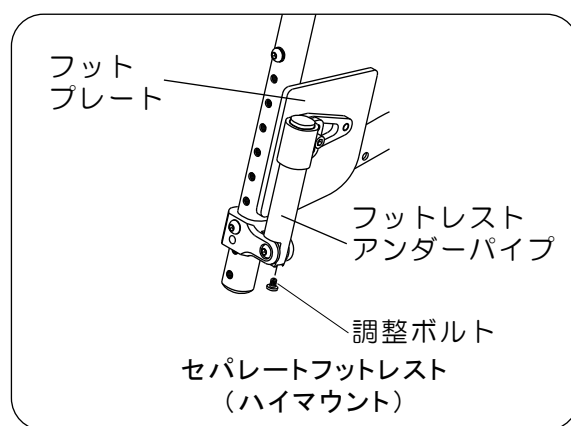
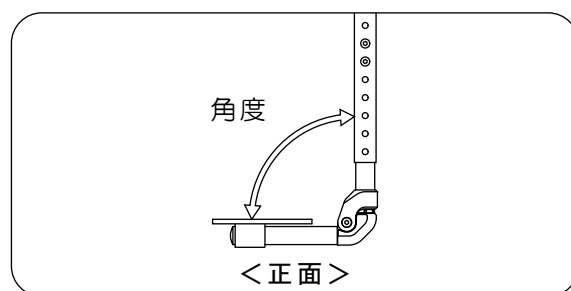
＊フットプレートとフットレストロッドバーやフレームに、手や指をはさまないようにゆっくりとたたんでください。

セパレートフットレスト（ハイマウント）【図2-8】

1）フットレストを折り上げる。

2）フットレストアンダーパイプ下端の調整ボルトを回して最適な角度に調整する。【図2-9】

3）左右同様にする。

固定ボルト締付けトルク　8N・m（0.8kgf・m）

【図2-7】

【図2-8】

【図2-9】

プレートセパレートフットレスト(ターン)の操作

＜開く＞【図2-10】

1）フットレストを折り上げる。（A）
2）フットレストを引き上げながら、外側に回転させる。（B→C）

＜戻す＞【図2-10】

1）フットレストを内側へ回転させる。（C）
※フットレストを引き上げる必要はありません。
2）フットレストを下げる。（A）

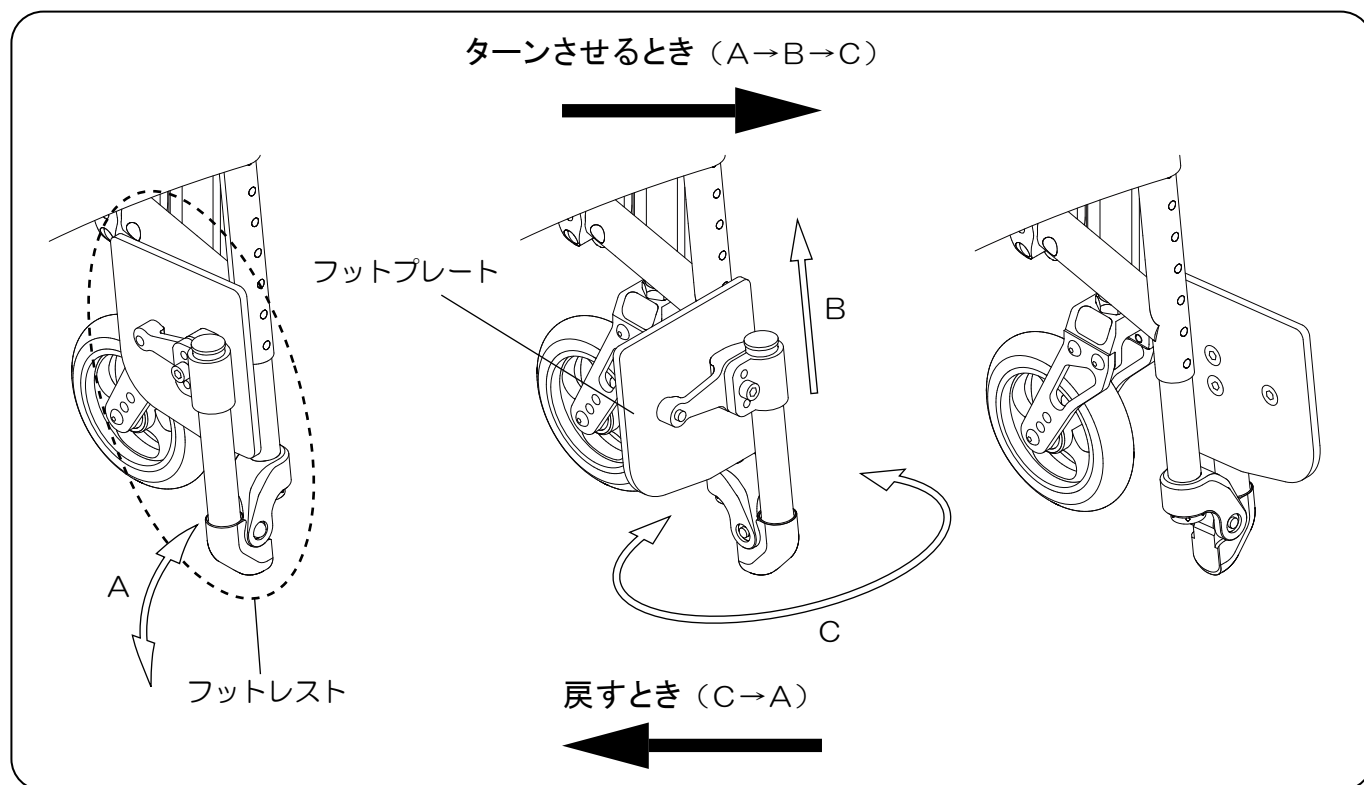
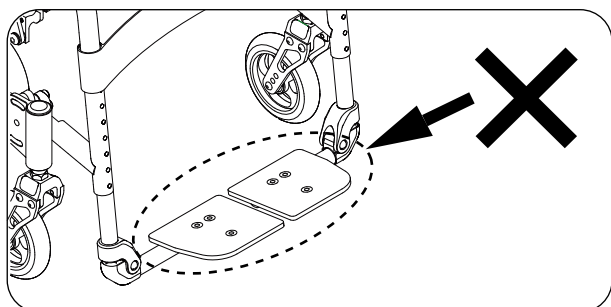
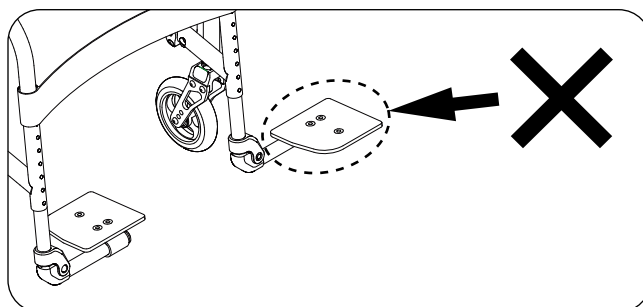
＜フットレストの点検＞

フットプレートにひび割れはないか。
ネジ・ボルトの緩みはないか。

⚠警告

フットプレート部そのものを前方向へ組換えない。【図2-11】
＊キャスターがロックしてしまい、転倒・転落のおそれがあります。

⚠注意

フットレストを外側に開いたまま走行しない。【図2-12】
＊周りの人や物等と接触し、事故のおそれがあります。

【図2-10】

【図2-11】

【図2-12】

バックレスト及びレザー類の調整・点検

＜アウターレザーの着脱＞【図2-13】

取外し方

アウターレザー前面下部から矢印の方向に面ファスナーをはがして行き後方もそのままはがします。

取付け方

取り外しと逆の手順で行います。楕円形のワッペンが車いす後方の上部にくるようにアウターレザーを取付けてください。

＜アウターレザーの外し方＞ハイグレード【図2-14】

※オプションのハイグレードレザーセット装着車のみ

1）アウターレザー１の面ファスナーをはがして取外す。
2）アウターレザー２の面ファスナーをはがして取外す。

＜アウターレザーの取付け方＞ハイグレード【図2-14】

※オプションのハイグレードレザーセット装着車のみ

アウターレザーの取付け後に、車いすの前後から見てインナーレザーのベルト(P.32)が全て覆い隠されるように取付けてください。

1）アウターレザー2をインナーレザーの後側（車いすの真後ろ）に取付ける。
2）アウターレザー１をインナーレザー上部にかぶせるように取付ける。（アウターレザー１の楕円形のワッペンが車いすの後方から見えるように取付ける）

＜ランバーパッドの交換方法＞ハイグレード【図2-14】

※オプションのハイグレードレザーセット装着車のみ

アウターレザー１の両側部のランバーパッド挿入口の面ファスナーをはがしお好みのランバーパッドと交換してください。なお、重ねて入れ過ぎると折りたたみ幅が広くなることがあります。

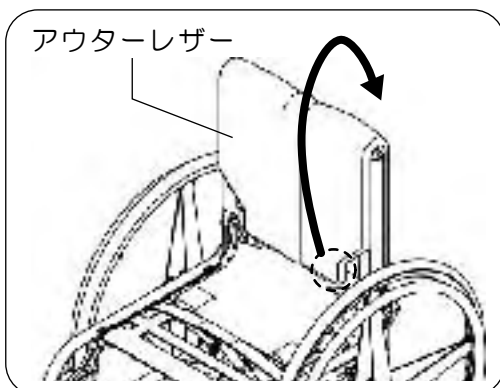
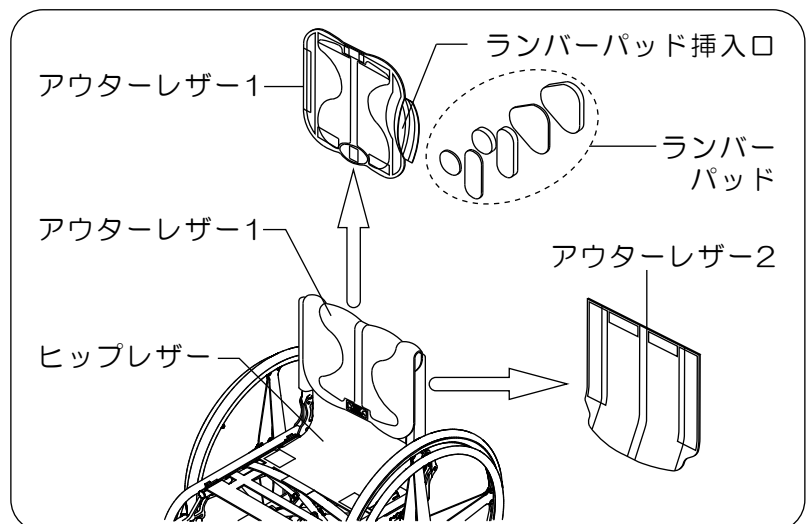
⚠注意

【図2-13】アウターレザーや【図2-14】アウターレザー１の内蔵スポンジの弾力が無くなってきたら交換する。
＊背中や腰に褥瘡（じょくそう）などができるおそれがあります。
＊スポンジのみの交換はできません。

⚠注意

面ファスナーは確実に貼り付ける。
＊固定力が低下して調整状態が変わってしまいます。

⚠注意

面ファスナーに付着した糸くずなどは取り除く。
＊固定力が低下して調整状態が変わってしまいます。

【図2-13】

【図2-14】

バックレスト及びレザー類の調整・点検

＜ヒップレザーの外し方＞【図2-15】

1）アウターレザーを外す。(P.28)
2）ヒップレザーのバックレスト側の面ファスナーをはがす。
3）ヒップレザーのシート側の面ファスナーをはがして取外す。

＜ヒップレザーの取付け方＞【図2-15】

ヒップレザーには向きがあります。取付けの際は注意してください。

1）ヒップレザーのシート側の面ファスナーを貼り付ける。
2）ヒップレザーのバックレスト側の面ファスナーを貼り付ける。
3）アウターレザーを取付ける。(P.28)。

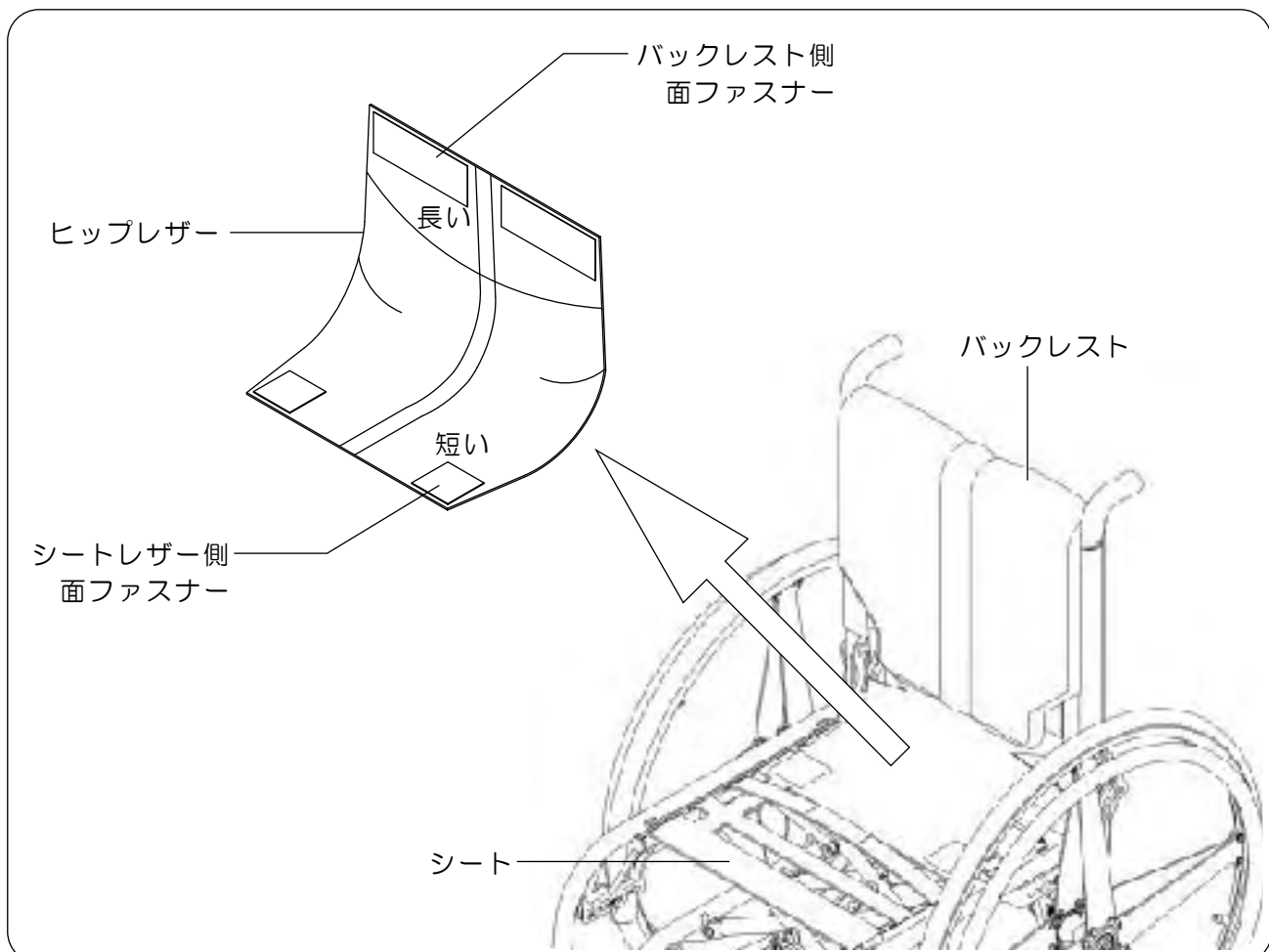
⚠警告

ヒップレザーの張りは乗車姿勢に影響するので正しく調整する。

⚠注意

面ファスナーは確実に貼り付ける。
＊固定力が低下して調整状態が変わってしまいます。

⚠注意

面ファスナーに付着した糸くずなどは取り除く。
＊固定力が低下して調整状態が変わってしまいます。

【図2-15】

バックレスト及びレザー類の調整・点検

＜サイドレザーの外し方＞【図2-16】

1）アウターレザーとヒップレザーを外す。(P.28・29)
2）サイドレザーの面ファスナーを外す。
3）車いすを少し折りたたんだ状態にする。
4）全てのプッシュリベットを外す。
5）サイドレザーからレールを引き抜く。

＜サイドレザーの取付け方＞【図2-16】

1）車いすを少し折りたたんだ状態にする。
2）サイドレザーとレールの穴が合うようにレールを差し込む。
3）全てのプッシュリベットを取付ける。
4）車いすを開いた状態にする。
5）サイドレザーを最適な張りにしながら、面ファスナーを貼り付ける。
6）アウターレザーとヒップレザーを取付ける。(P.28・29)

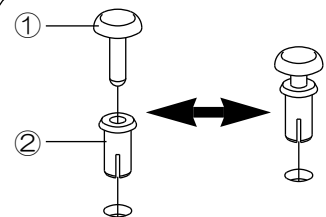
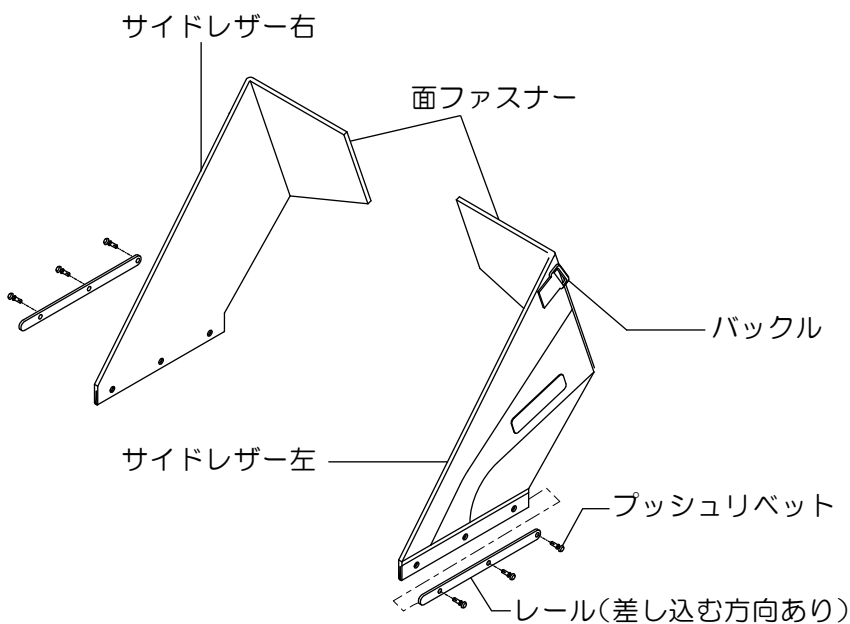
⚠注意

ホイールを回転させて、サイドレザーとタイヤ、スポークが接触しないことを確認する。

⚠注意

面ファスナーは確実に貼り付ける。
＊固定力が低下して調整状態が変わってしまいます。

⚠注意

面ファスナーに付着した糸くずなどは取り除く。
＊固定力が低下して調整状態が変わってしまいます。

プッシュリベット

取外し方

ペンチなどでプッシュリベットの①を上に引き抜いてから②を引き抜く。

取付け方

取付け穴に②を差し込み②に①を差し込む。

【図2-16】

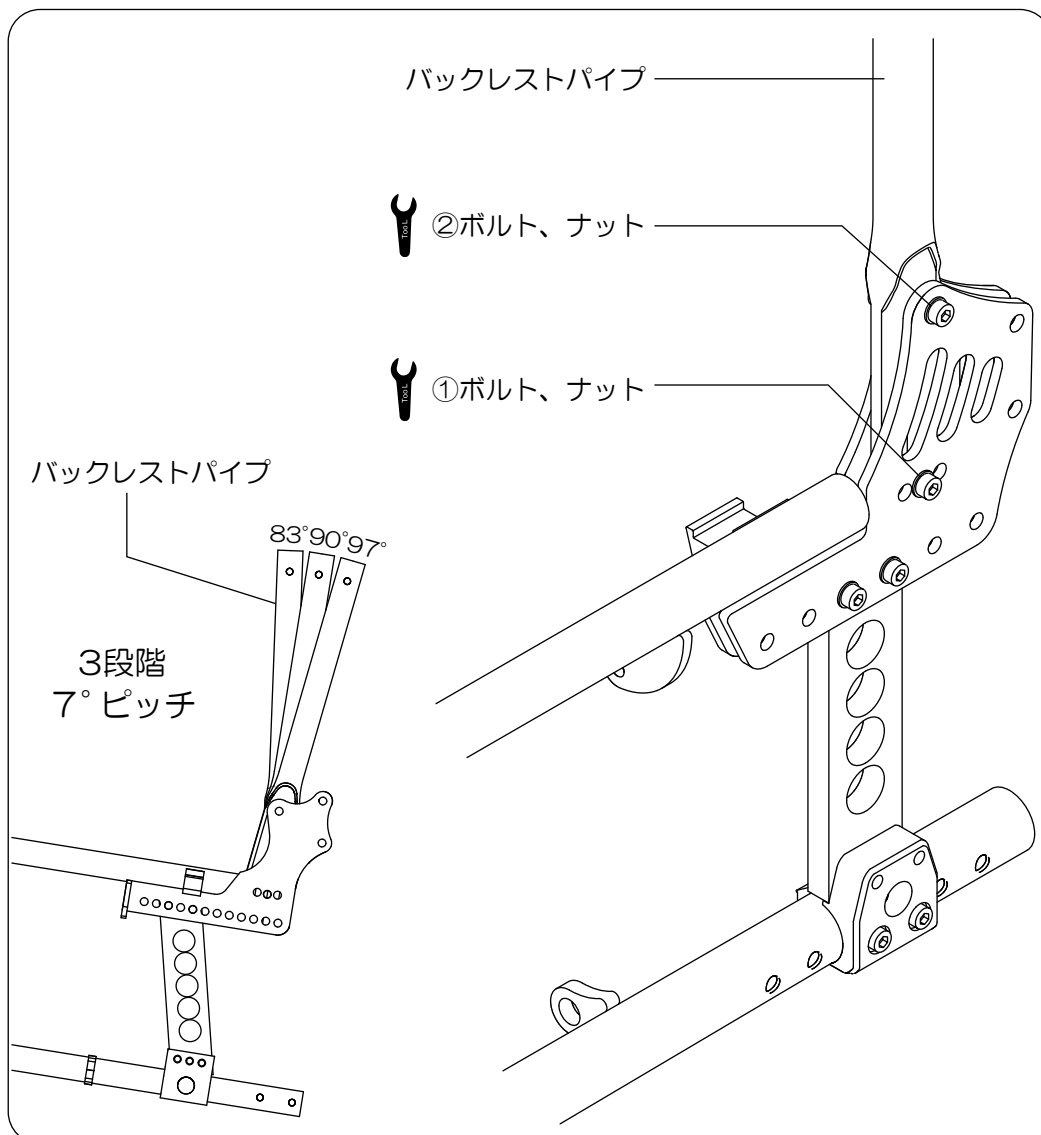
バックレスト及びレザー類の調整・点検

＜バックレストの角度調整＞【図2-17】

1）左右のサイドレザーの面ファスナーとベルトを外す。(P.30)
2）②ボルト、ナットを２～３回転緩める。
3）①ボルト、ナットを外す。
4）バックレストパイプを最適な角度になる調節穴に合わせ調節穴に①ボルトを通す。
5）①②ボルト、ナットを締める。
6）左右の調節穴が同じ位置になるように反対側も調整する。
7）左右のサイドレザーの面ファスナーを貼り付け、ベルトを取付ける。

⚠注意

必ず左右の調節穴は同じ位置にする。
＊バックレストに負荷がかかり車いすが破損するおそれがあります。

①ボルト締付けトルク	10N・m（1.0kgf・m）
②ボルト締付けトルク	10N・m（1.0kgf・m）

【図2-17】

バックレスト及びレザー類の調整・点検

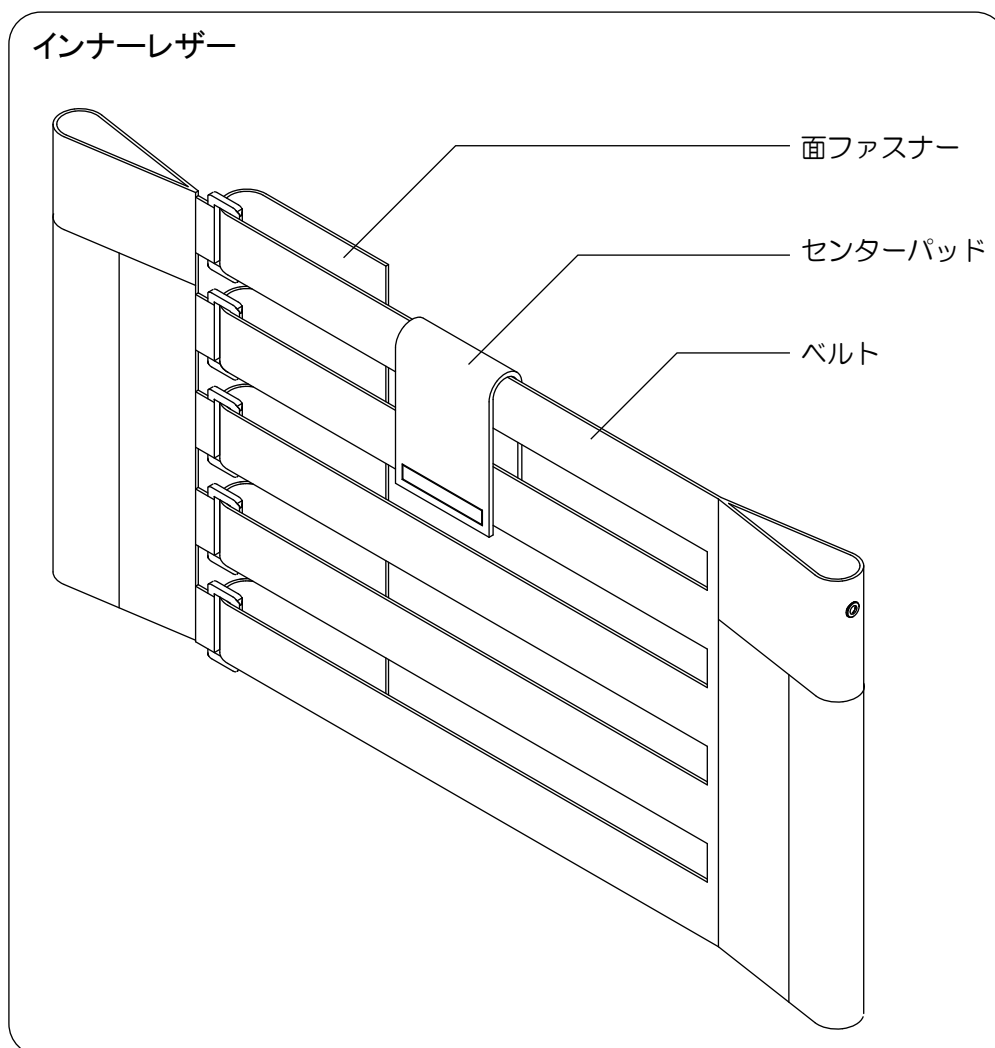
<インナーレザーの調整>【図2-18】

1）アウターレザーとヒップレザーを外す。(P.28・29)
2）サイドレザー装着車はサイドレザーのバックレスト側の面ファスナーを外す。(P.30)
3）インナーレザー上下各部のベルトを最適な張りに調整する。
4）センターパッドを背骨が当たる位置に移動する。
5）サイドレザー装着車はサイドレザーのバックレスト側の面ファスナーを貼り付ける。(P.30)
6）アウターレザーとヒップレザーを取付ける。(P.28・29)

⚠注意

面ファスナーは確実に貼り付ける。
＊固定力が低下して調整状態が変わってしまいます。

⚠注意

面ファスナーに付着した糸くずなどは取り除く。
＊固定力が低下して調整状態が変わってしまいます。

【図2-18】

バックレスト及びレザー類の調整・点検

＜インナーレザーの外し方＞【図2-19】

1）オプションのアームレスト装着車はアームレストを外す。(P.41)
2）アウターレザーを外す。(P.28)※コーナーパッド装着車はコーナーパッドも外す。
3）ヒップレザーを外す。(P.29)
4）サイドレザー装着車はバックレスト側の面ファスナーを外す。(P.30)
5）左右の取付けネジを外す。
6）インナーレザーを上に引き抜く。
※グリップ・介助グリップ装着車の場合は〈バックレスト高の調整〉(P.34)を参照し、グリップ・介助グリップを引抜いた後、インナーレザーを上に引抜く。

⚠注意

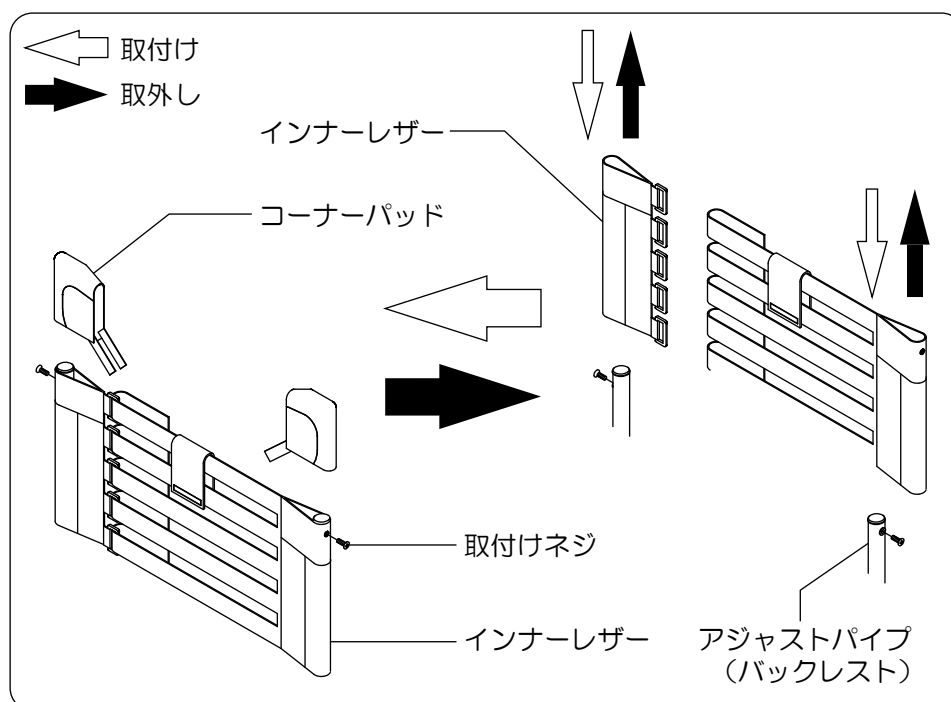
面ファスナーは確実に貼り付ける。
＊固定力が低下して調整状態が変わってしまいます。

⚠注意

面ファスナーに付着した糸くずなどは取り除く。
＊固定力が低下して調整状態が変わってしまいます。

＜インナーレザーの取付け方＞【図2-19】

1）バックレストにインナーレザーを差し込む。
2）インナーレザーの左右を取付けネジでアジャストパイプに固定する。
3）＜インナーレザーの調整＞(P.32)を行う。
4）コーナーパッド装着車はコーナーパッドを取付けアウターレザーを取付ける。
5）ヒップレザーを取付ける。(P.29)※サイドレザー装着車はサイドレザーのバックレスト側の面ファスナーを貼り付ける。(P.30)
6）アームレスト装着車はアームレストを取付ける。(P.41)

取付けネジ締付けトルク　4N・m(0.4kgf・m)

【図2-19】

バックレスト及びレザー類の調整・点検

＜バックレスト高の調整＞【図2-20】

オプションのグリップの付いたバックレストも同様の調整方法です。

1）インナーレザーを外す。（P.33）

2）①ネジ、②ナット、ワッシャーを外す。

3）アジャストパイプをスライドさせて最適な高さに調節する。

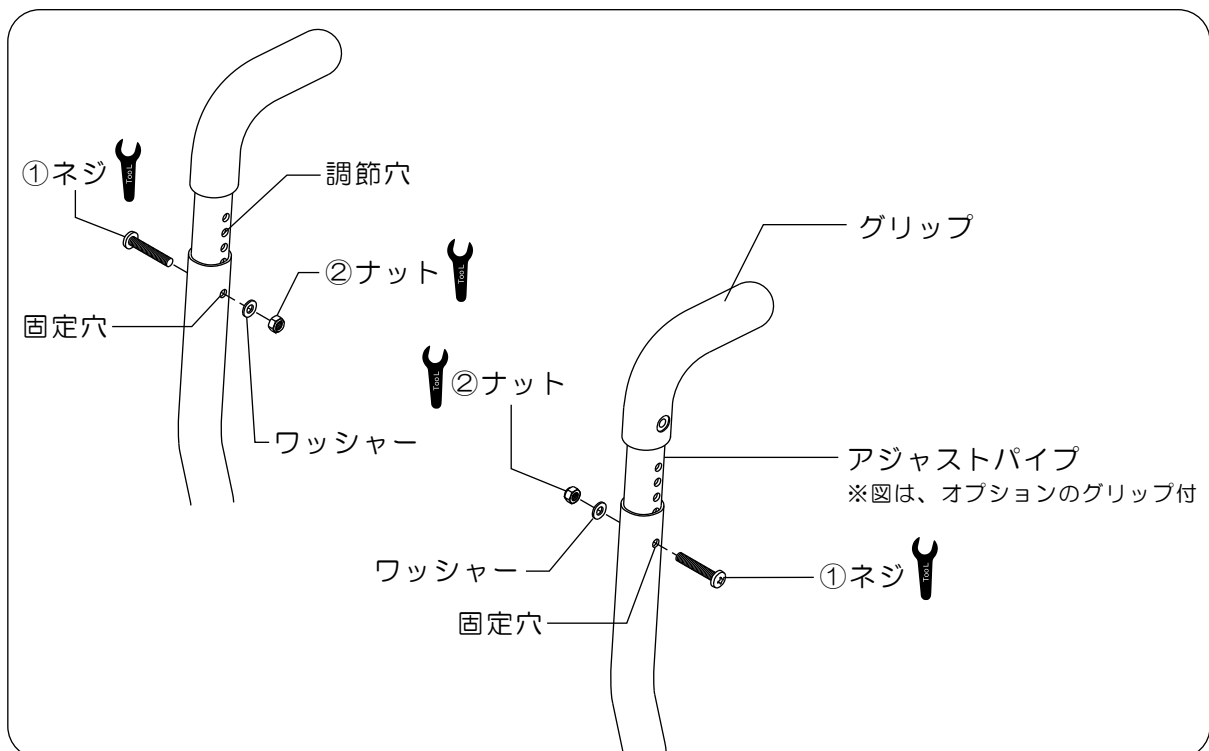
4）①ネジを固定穴と調節穴に通し、②ナット、ワッシャーで締付ける。

5）反対側も同様に同じ高さに調節する。

6）インナーレザーを取付ける。（P.33）

⚠注意

左右のバックレスト高は必ず同じ高さにする。
＊車いすが破損するおそれがあります。
＊アジャストパイプの穴位置を左右で合わせてください。

①ネジ締付けトルク　6N・m（0.6kgf・m）

【図2-20】

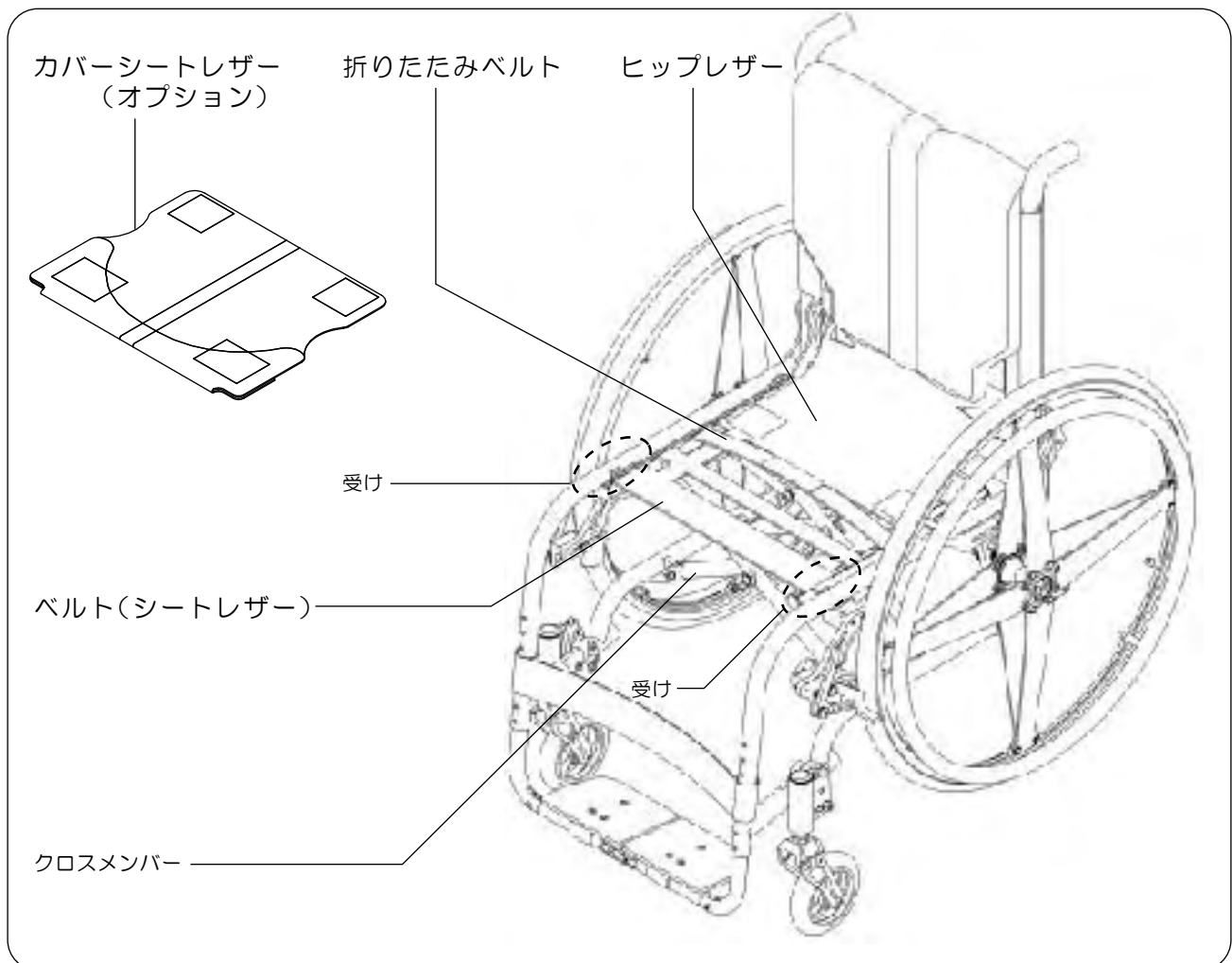
バックレスト及びレザー類の調整・点検

<シートレザーの張り調整>【図2-21】

1）オプションのカバーシートレザー装着車はカバーシートレザーを外す。
2）シートレザー裏側で前後各部のベルトと折りたたみベルトの張りを調整する。
3）ヒップレザーのシート側の面ファスナーを外し、シートレザーの張りに合わせて張りなおす。
4）オプションのカバーシートレザー装着車は折りたたみベルトの下を通してカバーシートレザーを取付ける。

⚠注意

シートレザーの張り調整はレザーの「張りすぎ」「ゆるめ過ぎ」に注意する。

＊車いすが破損するおそれがあります。
＊フレームなど硬い部分が身体に接触し、褥瘡（じょくそう）などができるおそれがあります。
＊車いすが開いた状態でしっかりとクロスメンバーがフレームの「受け」に収まっていることを確認してください。

【図2-21】

車軸位置の調整・点検

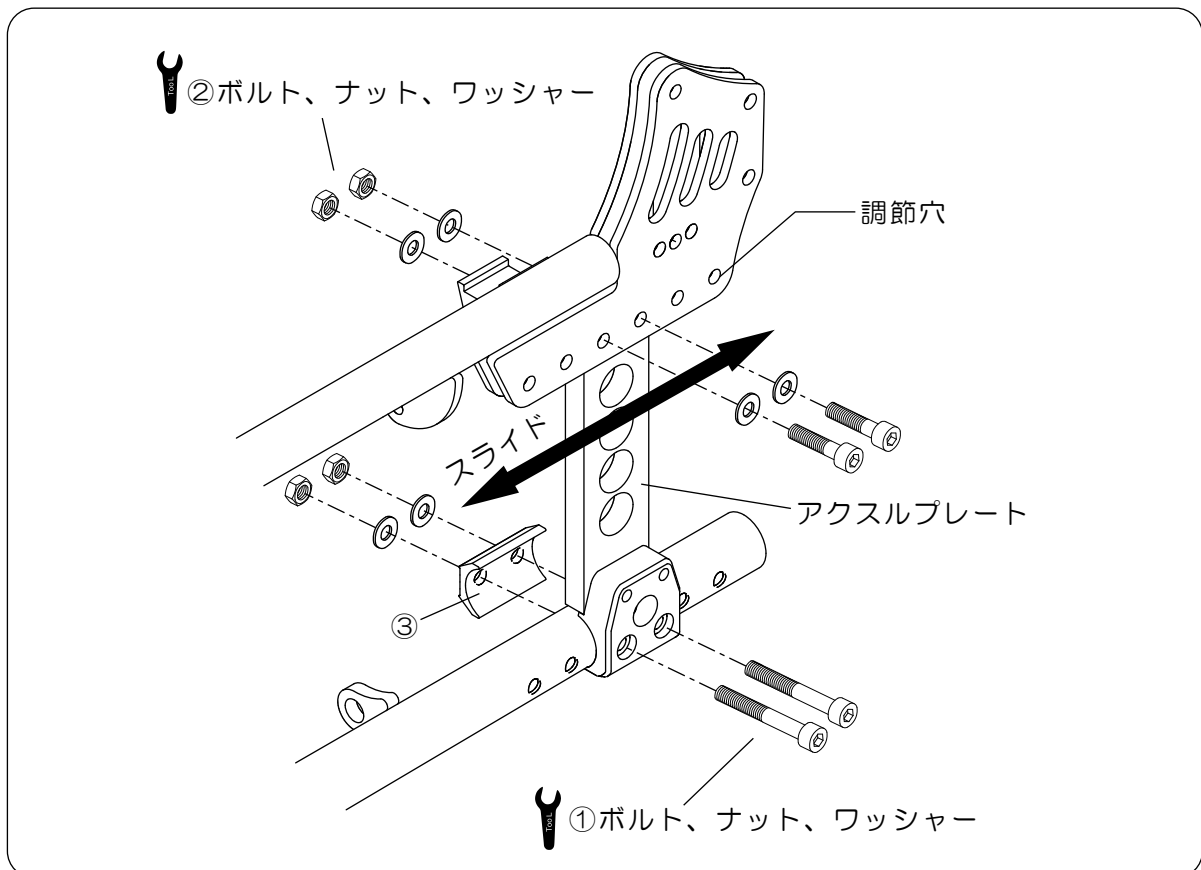
車軸位置の調整は、車いすの旋回性やこぎやすさ、後方への転倒をしにくくするなど車いすの性質を大きく左右しますので、一度に大きく変えずに少しずつ調整してください。

⚠警告

車軸を前方へ移動する調整を行った際は、十分注意して車いすに乗車してください。
＊後方へ転倒するおそれがあります。
＊調整後初めて乗るときは、ゆっくりと乗車してください。

＜車軸前後位置の調整＞【図2-22】

1）ブレーキを解除する。(P.16)車軸を前方へ移動する場合はあらかじめブレーキ位置を前方へ移動する。(P.17･18)
2）ホイールを外す。(P.15)
3）①ボルト、ナット、ワッシャーと、③を外す。
4）②ボルト、ナット、ワッシャーを外す。
5）アクスルプレートをスライドさせ最適な調節穴にあわせる。
6）②ボルトを調節穴とアクスルプレートに通し、ナット、ワッシャーで締付ける。
7）①ボルト、ナット、ワッシャー、③を固定する。
8）アクスルプレートが左右同じ位置になるように反対側も調整する。
9）ホイールを取付け(P.15)、ブレーキの位置を調整する。(P.17･18)
10）キャスター角を調整する。(P.40)

①ボルト締付けトルク	10N･m(1.0kgf･m)
②ボルト締付けトルク	10N･m(1.0kgf･m)

【図2-22】

車軸位置の調整・点検

車軸位置の調整は、車いすの旋回性やこぎやすさ、後方への転倒をしにくくするなど車いすの性質を大きく左右しますので、一度に大きく変えずに少しずつ調整してください。

⚠警告

後座高をシートの前端（前座高）より高くしない。

＊前方へずり落ち、転倒、転落のおそれがあります。

⚠警告

車軸を上方へ移動する（後座高を下げる）調整を行った際は、十分注意して車いすに乗車してください。

＊後方へ転倒するおそれがあります。

＊調整後初めて乗るときは、ゆっくりと乗車してください。

＜後座高の調整＞【図2-23】【図2-24】【図2-25】

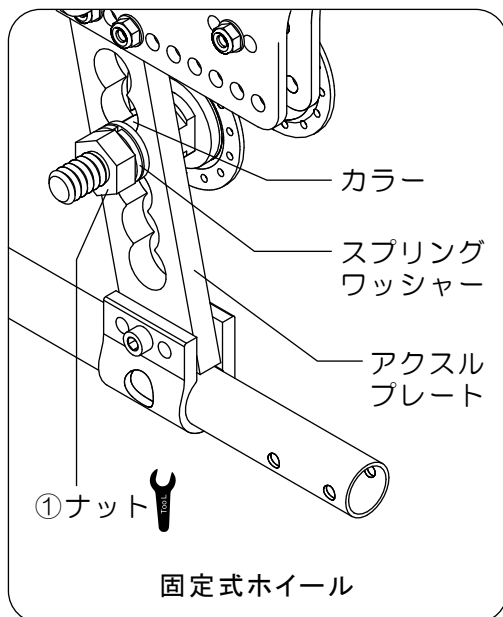
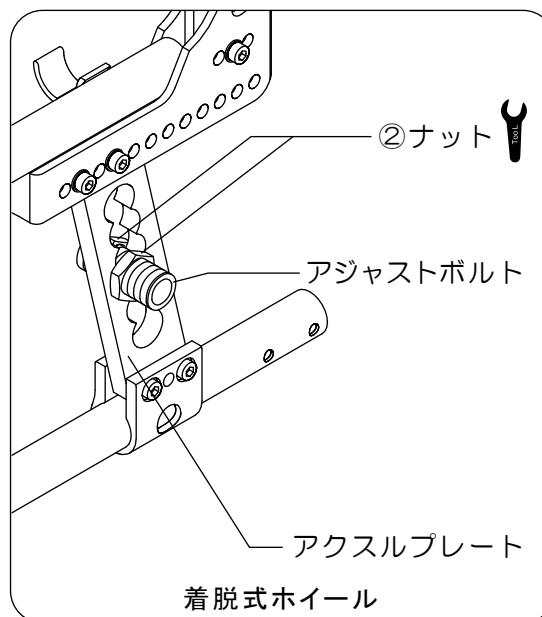
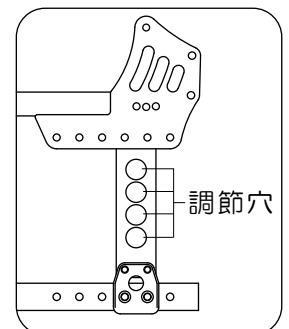
固定式ホイールの場合

1）ブレーキを解除する。
2）車いす内側の①ナット、スプリングワッシャーを外す。
3）カラーを抜き、ホイールを外す。
4）最適な後座高になる調節穴にカラーとホイールを差し込む。
5）①ナット、スプリングワッシャーで締付ける。
6）左右同じ位置にくるように反対側も調整する。

着脱式ホイールの場合

1）ブレーキを解除する。
2）ホイールを外す。（P.15）
3）車いすの内側の②ナットを外す。
4）最適な後座高になる調節穴にアジャストボルトを差し込む。
5）ホイールの取付け間隔を調整する。（P.38）
6）車いす外側の②ナットが回らないように車いす内側から②ナットで締付ける。
7）後座高とホイールの取付け間隔が左右同じになるように反対側も調整する。
8）ホイールを取付ける。（P.15）

①ナット締付けトルク	40N・m（4.0kgf・m）
②ナット締付けトルク	60N・m（6.0kgf・m）

カラー
スプリングワッシャー
アクスルプレート
①ナット
固定式ホイール

【図2-23】

【図2-24】

【図2-25】

車軸位置の調整・点検

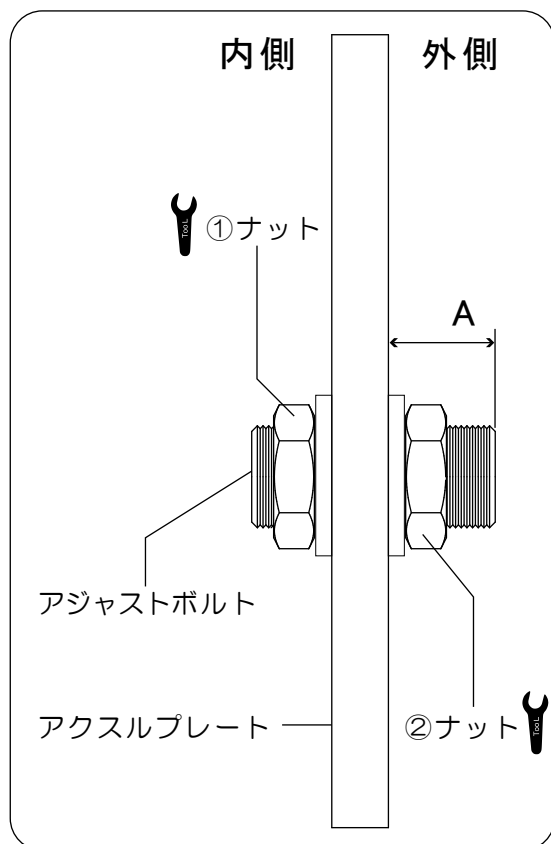
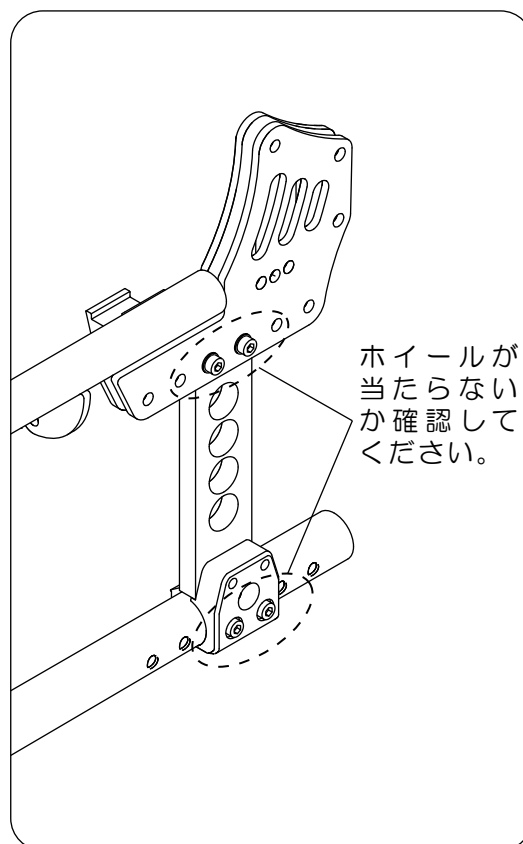
＜着脱式ホイールの取付け間隔調整＞【図2-26】【図2-27】

車いす外側の②ナットからのアジャストボルトの突き出し量「A」は、必ず10～15mmの範囲内で調整してください。

1）ホイールを外す。(P.15)
2）車いす内側の①ナットを緩める。
3）アジャストボルトを回し最適なホイール取付け間隔「A」にする。
4）外側の②ナットがアジャストボルトに対して回らないように支持しながら内側の①ナットを締付ける。
5）ホイールを取付ける。(P.15)
6）ホイールがフレームのボルトなどに当たっていないか確認する。
7）左右のホイール取付け間隔「A」が同じになるように反対側も調整する。

①②ナット締付けトルク　60N・m(6.0kgf・m)

⚠警告

アジャストボルトの突き出し量「A」は必ず10～15mmの範囲内で調整する。
＊ホイールが外れ、転倒、転落のおそれがあります。

【図2-26】

【図2-27】

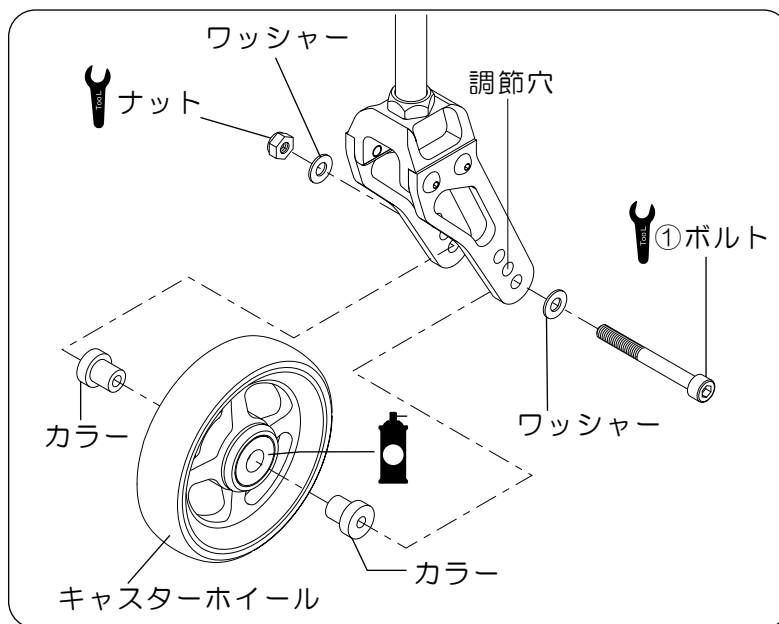
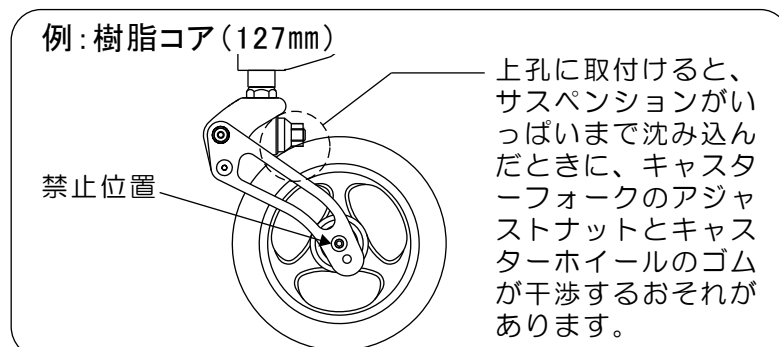
キャスター（前座高）の調整・点検

＜前座高の調整＞【図2-28】【図2-29】

キャスターフォークの調節穴を使用して調整します。

注意：**キャスターフォークにSFR2を使用している場合、下記のキャスターホイールは部品干渉が発生するおそれがありますので、調節することができません。【図2-29】**
出荷時の位置にてご使用ください。
キャスターホイール：LPC4（125mm）・樹脂コア（127mm）

1）①ボルト、ワッシャー、ナットを外す。
2）キャスターホイールの左右にカラーが組み込まれた状態で最適な調節穴に合わせる。
3）①ボルト、ワッシャー、ナットで締付ける。
4）左右同じ調節穴になるように調整する。
5）キャスター角を調整する。（P.40）

①ボルト締付けトルク　10N・m（1.0kgf・m）

⚠警告
必ず左右同じ高さの調節穴を使用する。
＊車いすが不安定になり転倒、転落のおそれがあります。また、車いすが破損します。

⚠警告
【図2-29】の取付け方はしない。
＊キャスターフォークとキャスターホイールが干渉し、転倒・転落のおそれがあります。また、車いすが破損します。

⚠警告
キャスターホルダーは、必ず地面に対して垂直にする。
＊車いすが破損して、事故や転倒・転落のおそれがあります。

【図2-28】

【図2-29】

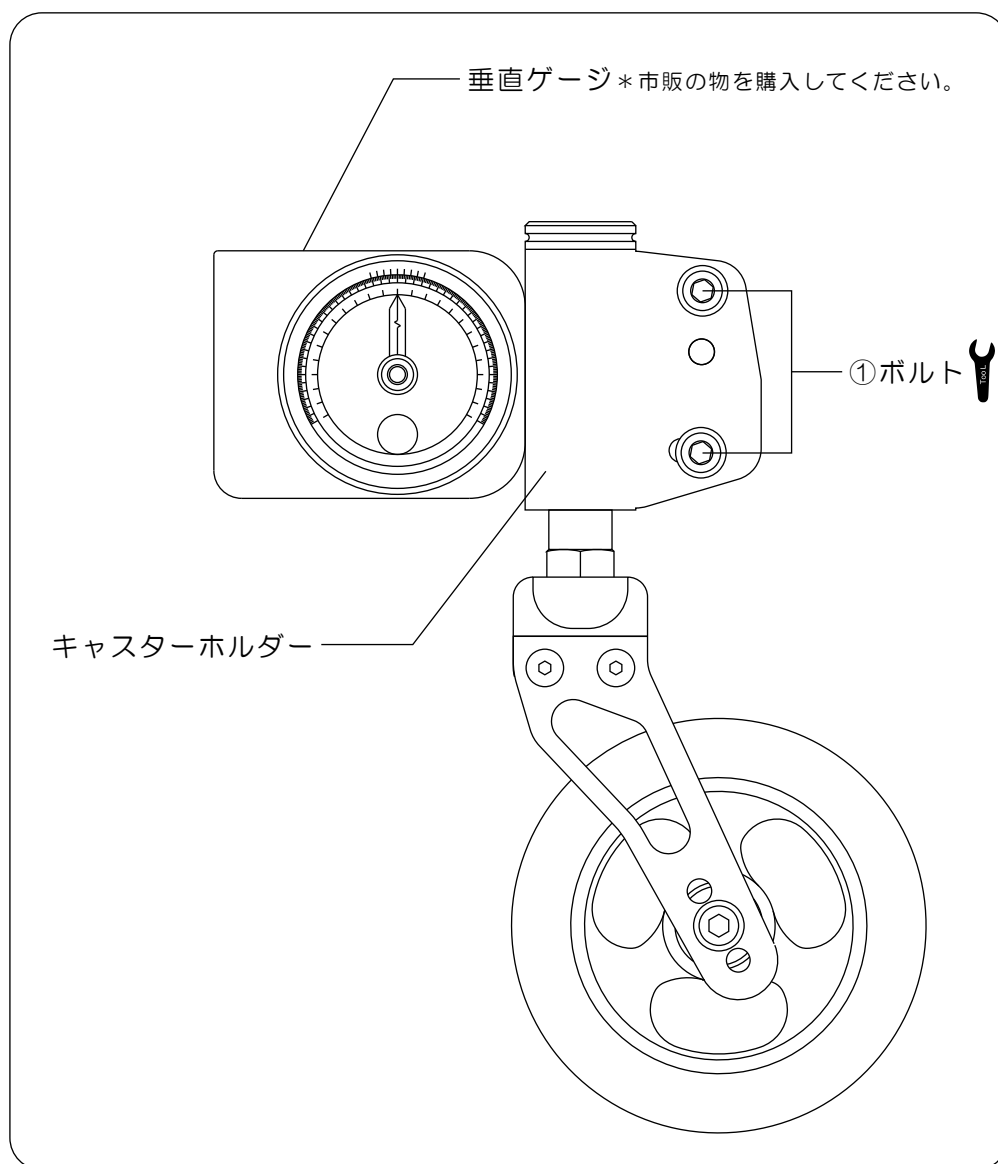
キャスター（前座高）の調整・点検

＜キャスター角の調整＞【図2-30】

1）①ボルトを少し緩める。
2）キャスターホルダーが地面に対して垂直になる位置で①ボルトを締付ける。
3）反対側も同様に調整する。

①ボルト締付けトルク　10N･m（1.0kgf･m）

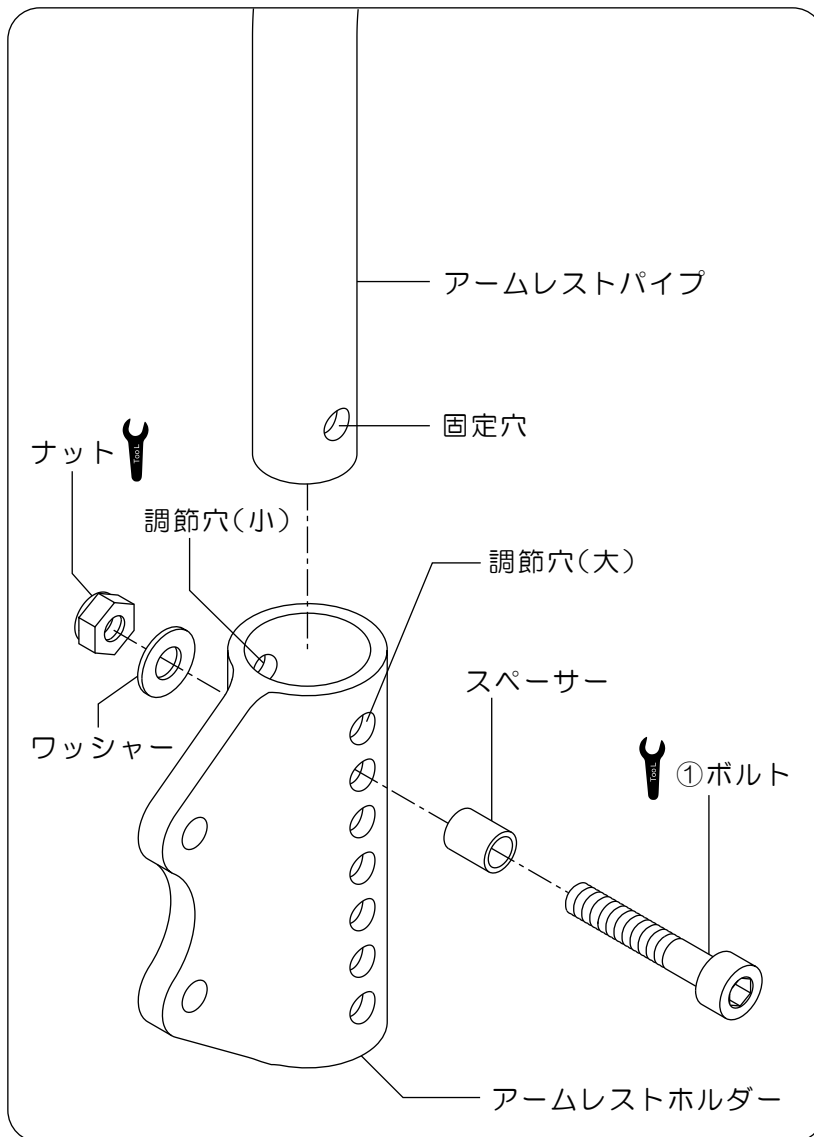
⚠警告

キャスターホルダーは、必ず地面に対して垂直にする。
＊車いすが破損して、事故や転倒、転落のおそれがあります。

【図2-30】

アームレストの調整・点検

＜アームレスト高の調整＞【図2-31】

1）①ボルト、ナット、ワッシャー、スペーサーを外す。
2）最適な位置の調節穴に固定穴を合わせる。
3）①ボルト、ナット、ワッシャー、スペーサーで締付ける。
※このときスペーサーがアームレストホルダーの調節穴(大)に収まるように締付けます。
4）反対側も同様に調整する。

①ボルト締付けトルク　10N･m(1.0kgf･m)

⚠警告

①ボルトを締付ける際は図の順序で組み付ける。
＊アームレストが確実に固定されず事故のおそれがあります。

⚠警告

①ボルトはスペーサーを調節穴(大)に収めてから締付ける。
＊アームレストが確実に固定されず事故のおそれがあります。
＊①ボルトとアームレストパイプにスペーサーをはさみこむように締付けます。

【図2-31】

その他の調整・点検

＜SFR2の調整＞【図2-32】【図2-33】

1）車いすに乗らない状態で、左右のSFR2の、【図2-32】で示す「Ａ」の寸法を測定する。
2）普段の乗車姿勢で車いすに乗った状態で、１)と同様に【図2-32】の「Ａ」の寸法を測定する。
※１)と２)の寸法の差は、５㎜程度が基本的な硬さです。
3）１)と２)の寸法の差が５㎜程度でない場合、アジャストナット【図2-32】を付属の工具を使い、次のとおり調整する。
※５㎜より小さい場合:【図2-33】の「柔らかくなる」方向へ回す。
※５㎜より大きい場合:【図2-33】の「硬くなる」方向へ回す。
※アジャストナットの調整は１回あたり､1/2～1/4回転までとしてください。
※左右共､基本的な硬さ(上記１)と２)の寸法差が５㎜程)となるまで調整を繰り返してください。
4）調整後、実際に車いすを走行させ、乗り移り等も十分考慮したうえで最適な硬さであることを確認する。

＜SFR2の調整範囲＞【図2-33】【図2-34】

「柔らかくなる」方向
アジャストナットを【図2-33】の「柔らかくなる」方向へあまり力を入れずに回して止まったところが最も柔らかい状態です｡それ以上は無理に回さないでください。

「硬くなる」方向
アジャストナットを【図2-33】の「硬くなる」方向へ回して､【図2-34】のＭＡＸラインまでの範囲内で調整してください。

＜ゴムダンパーについて＞

●サスペンションケースのゴムダンパーは、初期のなじみによりサスペンションが柔らかくなりやすいので、適時に上記の調整を行ってください。
●ゴムダンパーは消耗品です。機能が低下した場合は交換してください。

【図2-32】

【図2-33】

【図2-34】

⚠警告
測定・調整は介助者等に行ってもらう。
＊無理な姿勢での作業は、バランスを崩し転落等のおそれがあります。

⚠警告
測定・調整は左右のキャスターが同様となるようにする。
＊左右の設定が異なった状態では、直進性が低下します。著しく異なる場合バランスを崩し、事故・転落等のおそれがあります。

⚠警告
サスペンションの硬さの調整は一度に大きく変えない。
＊硬さが一度に大きく変化するとバランスを崩し、事故・転落等のおそれがあります。

⚠警告
基本の硬さから柔らかくしすぎない。
＊乗り移り等で車いす前方に加重をかけた場合バランスを崩し、事故・転落等のおそれがあります。

⚠警告
分解・改造等はしない。
＊キャスターフォークが破損し、事故・転落等のおそれがあります。

⚠注意
アジャストナットを無理に回さない。
＊アジャストナットの調整範囲をこえて無理に回そうとするとキャスターフォークを破損するおそれがあります。

その他の調整・点検

＜レッグベルトの着脱＞【図2-35】

取外し：レッグベルト裏側左右の面ファスナーを外します。

取付け：最適な位置に面ファスナーを左右均等な長さになるように面ファスナーを貼り付けてください。

＜「LPC4」キャスターホイールのゴム交換＞【図2-36】

「LPC4」キャスターホイールのゴムが、減ってきたり深い亀裂が入った時は、お買い求めの販売店でゴム交換を行ってください。

ご自分で交換される場合は、

1）キャスターフォークからキャスターホイールを外す。※P.39の<前座高の調整>を参照してください。

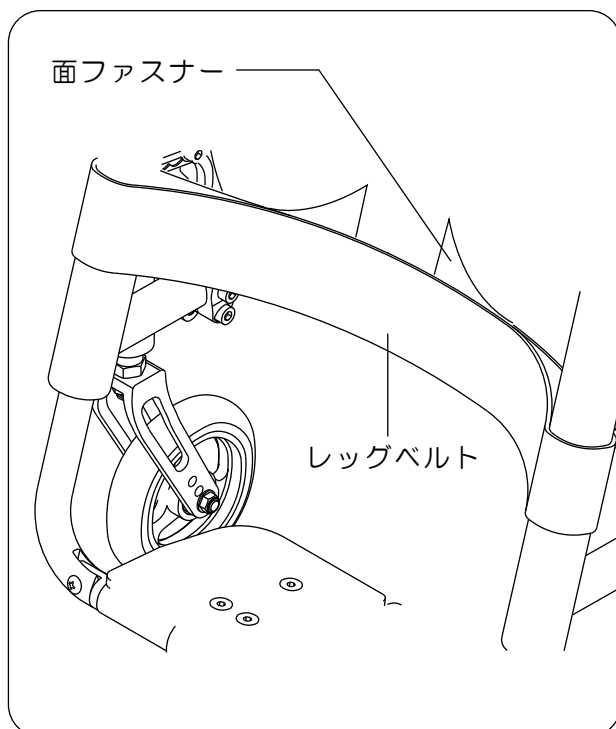
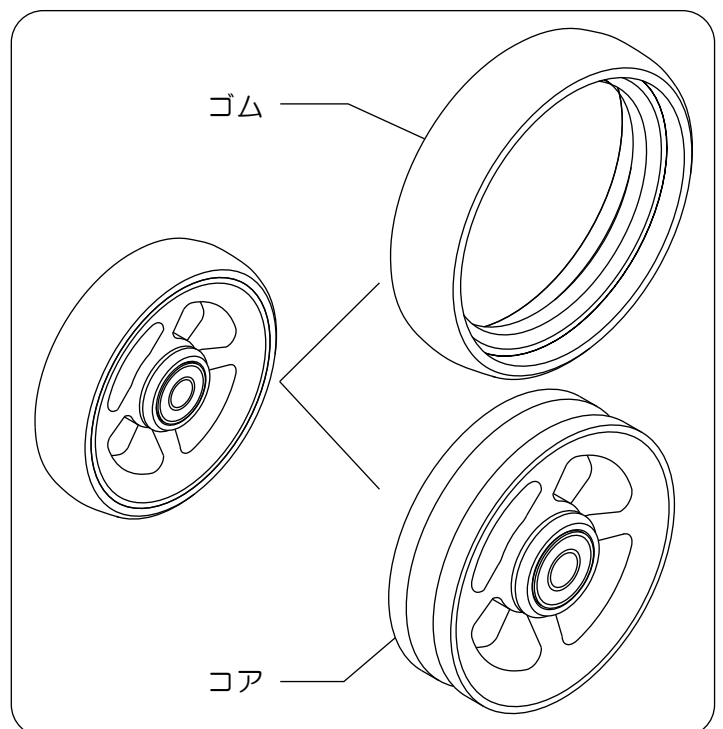
2）軍手など厚みのある手袋を使用して古いゴムをコアから外す。

3）新しいゴムを伸ばしながらコアにはめ込みます。
※ある程度の力が必要です。

⚠注意

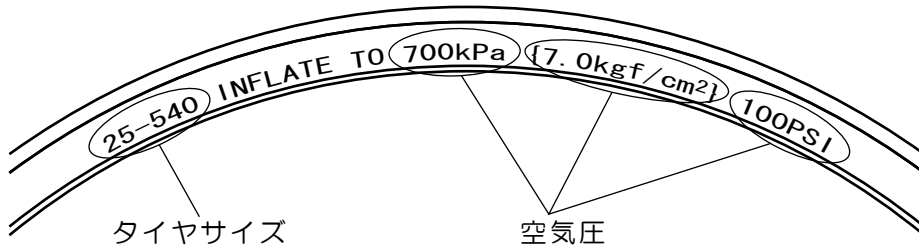
「LPC4」キャスターホイールのゴム交換や清掃の際に潤滑剤やワックスなどの油分を使用しない。

＊ゴムが外れ事故のおそれがあります。

＊ゴムのひび割れなどの原因となります。

【図2-35】

【図2-36】

その他の調整・点検

＜タイヤの点検＞

1.亀裂、損傷、異物、溝の深さ、異常な磨耗などを点検します。
2.タイヤに異常がある場合はお買い求めの販売店で点検・整備を受けてください。
3.空気圧は適切か点検してください。

※十分空気が入っていて、タイヤに表示してある空気圧になっていること。
（図の数値は表示の例）
※使用する空気入れのメーター表記にしたがいタイヤに表記された空気圧の指示に合わせてください。

⚠注意

○パンクしたまま使用しないでください。
○空気圧が少ないと車いすの操作が重くなり、パンクしやすくなります。
○空気圧が少なすぎると、リムからタイヤが外れるおそれがあります。
○空気圧が多すぎると気圧や温度の変化でパンクするおそれがあります。
○左右の空気圧は同一にしてください。

＜ホイール回りの点検＞

1.ホイールやハンドリムの動きに異常が感じられたら、点検を行い必要に応じて清掃、注油、増し締めを行ってください。
2.ホイールシャフトの動きに異常が感じられたら、点検を行い必要に応じて清掃、注油を行ってください。

＜その他の点検＞

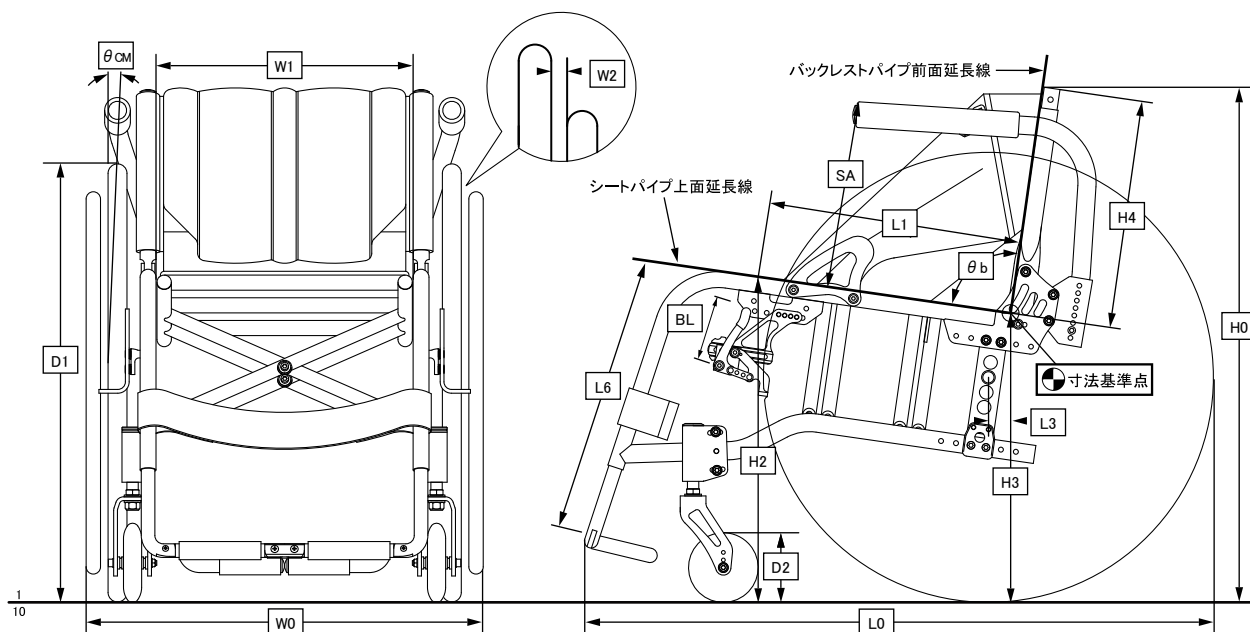
1.ネジ・ボルト・ナットの付いている箇所は1か月に1回点検。
緩み、脱落、破損、異音が無いか点検してください。
2.キャスター回りは1か月に1回点検。
曲がり、破損、異音、回転不良が無いか点検してください。
3.ブレーキは毎日乗車する前に点検。
ブレーキの効き、ボルト・ナット類の緩み、脱落などが無いか点検してください。
4.アームレスト、グリップは毎日乗車する前に点検。
ぐらつき、大きなガタつき、ネジ・ナット類の緩み、異音が無いか点検してください。

4章
その他

この章では、各車いすの仕様諸元とお客様
ご相談窓口のご案内を記載しています。

	Fusion仕様諸元(単位:mm)	
L0	全長	フレーム長:ショート=830 / ロング=860
H0	全高	フレーム高:フラット=682 / レギュラー=673
H2	前座高	フレーム高:フラット=390 / レギュラー(シート奥行き350/380の場合)=430 / レギュラー(シート奥行き410の場合)=435
H3	後座高	380
L1	シート奥行	350 / 380 / 410
W1	シート幅	275~415〔20mmピッチ〕＊規格寸法は280~420mm〔20mmピッチ〕
W0	全幅	530
WH	折りたたみ幅	315
H4	バックレスト高	バックレストタイプ: ロー=300~350 / ミディアムタイプ=350~400 / ハイタイプ=400~450 スーパーハイタイプ=450~500〔10mmピッチ・可変〕介助ブレーキ装着車、フォールディングバックレスト装着車はスーパーハイ設定のみ
θb	バックレスト角	83°・ 90°・ 97°〔7°ピッチ・可変〕
L6	フットレスト長	プレートジョイント、パイプジョイント、セパレートの場合 フレーム高:フラット=250~350 / レギュラー=300 ~400〔10mmピッチ・可変〕 ハイマウントの場合 フレーム高:フラット=70~250 / レギュラー=100 ~290〔10mmピッチ・可変〕
D1	タイヤ・ホイールサイズ	25-501(22インチ)外径560㎜、リムサイズ:22×1-1/4 25-520(23インチ)外径580㎜、リムサイズ:24×1-1/8 25-540(24インチ)外径595㎜、リムサイズ:24×1-3/8 32-540(ブロックタイヤ24インチ)外径610㎜、リムサイズ:24×1-3/8 25-559(25インチ)外径615㎜、リムサイズ:26×1.50
L3	車軸前後位置	フレーム高:フラット=60~-20 / レギュラー=70~-10〔20mmピッチ・可変〕
θCM	キャンバー寸法	0°
W2	ハンドリム取付間隔	5・10・15・20・25・30
D2	キャスター径	LPC4: 80・95・105・125 / 樹脂コア : 92・105・127 / クッションキャスター: 125
BL	ブレーキレバー長	85・120
SA	アームレスト高	アームレスト:ロータイプ= 250~300 / ハイタイプ=290~340 はね上げ式:ロータイプ= 260~310 / ハイタイプ=300~350 〔10mmピッチ・可変〕
	重量	9.5㎏

※上記仕様諸元表は、次の仕様を元に算出しております。
シート奥行:350㎜ / シート幅:320㎜ / バックレスト高:300㎜ / バックレスト角:90° / フットレスト長:フラットフレーム=350㎜・レギュラーフレーム=370㎜ / ホイール:AL-5 / タイヤ:25-540(外径595mm) / 車軸前後位置:フラットフレーム=20㎜・レギュラーフレーム=30㎜ / キャンバー寸法:0㎜ / ハンドリム取付間隔:10㎜ / キャスターフォーク:ワイドキャスターフォーク / キャスター径:92㎜ / キャスターカラー(10㎜)位置:上1ケ・下1ケ / キャスターホイール取付穴:最下穴 / フットレスト:パイプジョイント(スタンダード) / アームレスト:無し / その他オプション・アクセサリー:無し

下図寸法の記号

お客様ご相談窓口のご案内

＜お客様ご相談窓口＞

お買い上げいただきました当社の製品やサービスについてご質問、ご意見、ご要望などがございましたらご遠慮なくお寄せください。また、各種オプション・アクセサリーのお問い合わせ、ご注文もお受け致しております。

株式会社オーエックスエンジニアリング
営業部　お客様ご相談窓口
TEL 043-228-0777　FAX 043-228-3334

＜アフターサービスの実施＞

お買い上げいただきましたお取扱店が点検、修理をはじめ、アフターサービスのご相談などをお受けいたします。

当社への部品のお問い合わせや、故障箇所をご説明いただくときなどは次の方法でお問い合わせください。

本書をお手元に用意していただき、巻末に記載されている取扱説明書NO.を確認して、「MA○○年○月第○版の○○ページの、図○-○の、○○○」とご説明ください。

例）　32ページの、図2-16の、プッシュリベット
例）　39ページの、図2-24の、②ナット

お問い合わせ先
株式会社 オーエックスエンジニアリング
営業部 お客様相談窓口
〒265-0043　千葉市若葉区中田町2186-1
TEL043-228-0777
FAX043-228-3334

＜パンクでお急ぎの場合には＞

お近くの自転車販売店に修理を依頼してください。